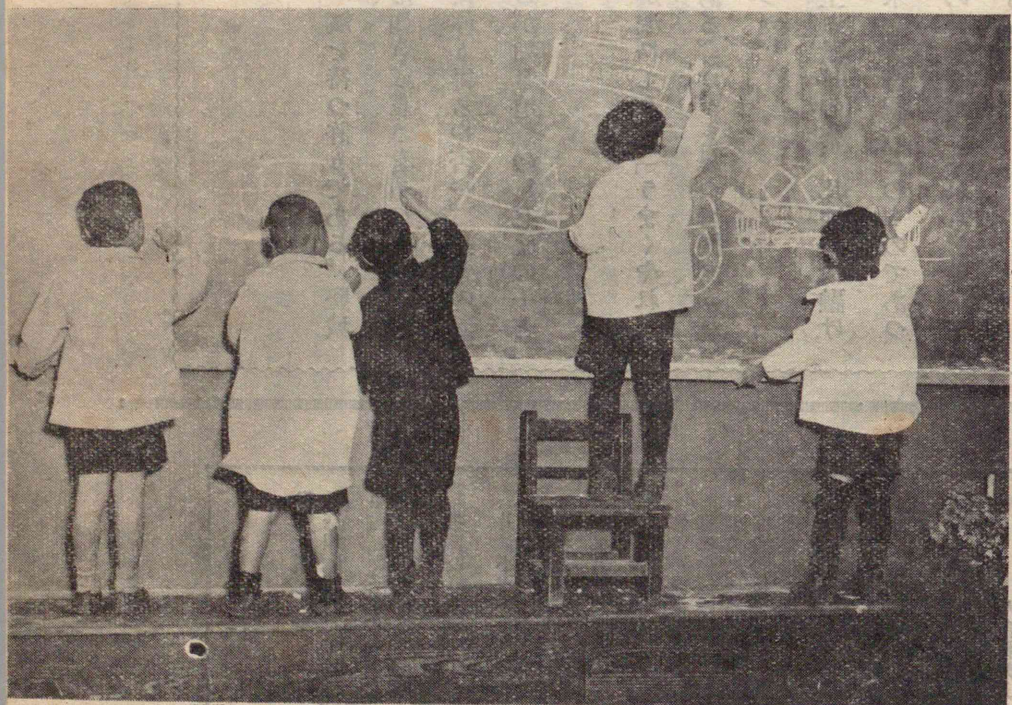


武相教育

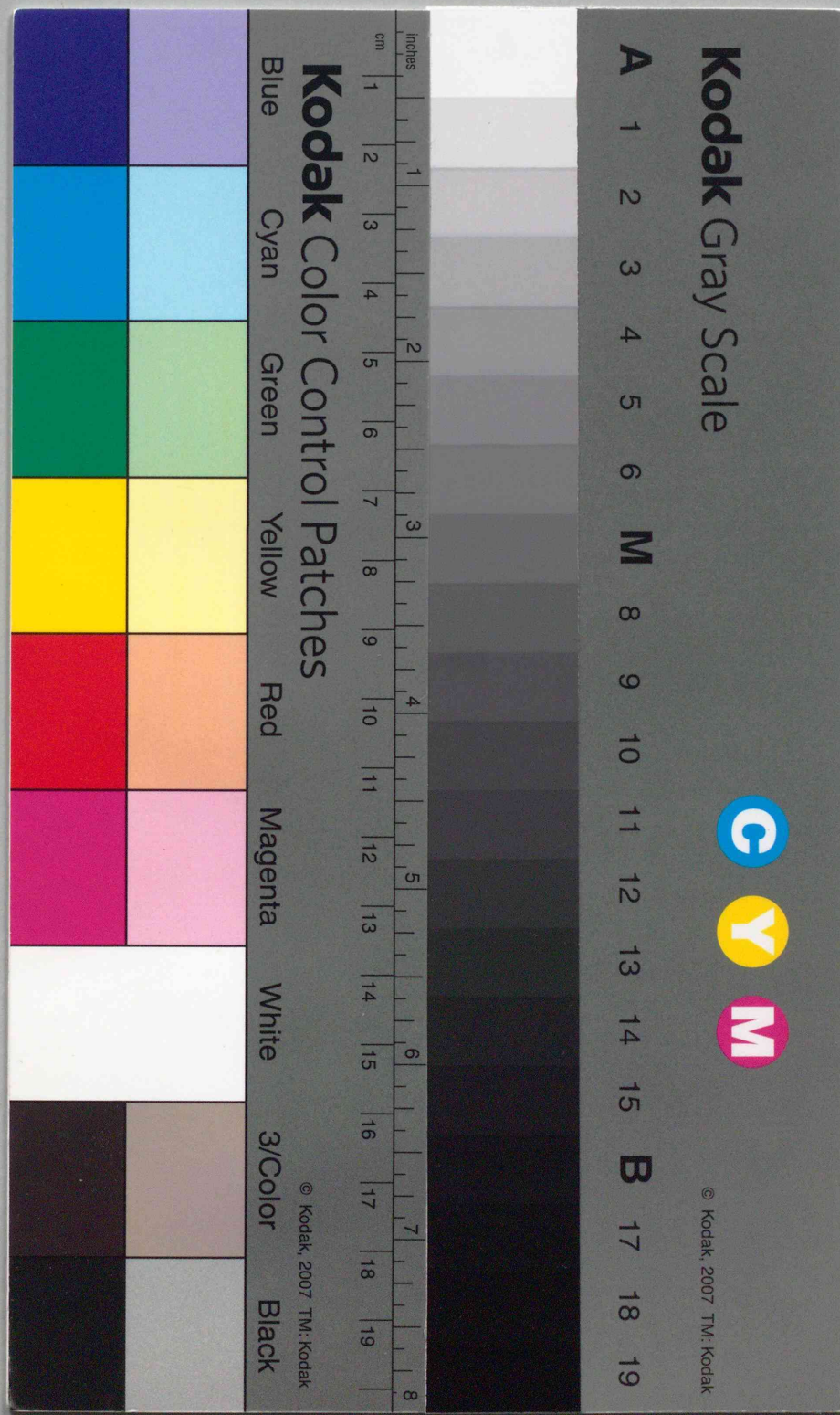
號一十九第 年七九五二紀

號輯特導指科教



行發會育教縣川奈神

昭和十二年七月二十七日第三種郵便物認可
昭和十二年十一月廿五日發行(毎月廿五日發行)



卷 頭 言

取除作業は凡てを完了した。後は只最後の銀斧一觸を待つ許りである。堅城鐵壁と見ゆる新鋭航空母艦「飛龍」の英姿は、山の如き威重さをもつて建造臺上に静止して居る。果して其の静は、次の瞬間動に移り得るや否や。異常の緊張が係員を支配し、十數萬の觀衆を壓した。息塞るが如き迫急のしじまの一時。

不圖耳元に私語くともない低いしかし力強い聲が流れてきた。「うまくやれ！しつかりやつて呉れ！」心の底から祈念する聲である。オヤと思つて振り返り見る眼の前には、海軍將校の制服姿のいくつかがあつた。

閃光一瞬、繩は切られた。搖ぎ出る巨體、湧き上る歡呼の聲、凡は一に融けて、此の新生誕生の大任結了を喜び、輝かしい將來を壽ぎ祝ふそのものであつた。その歡呼はやがて群集と共に四散して行つたのであるが、それらを貫いて消えぬは「しつかりやつて呉れ」と祈るあの聲である。

直接の當事者でなくとも、同じ心を通はせてよかれと念ずる姿こそ、和の眞諦であり日本精神のそれではあるまいか。教育の道をしみじみと思ふ。

目 次

神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して(十一)	三
縣指定教科指導	三
修身科授業參觀所感	三
明日の算術教授への希望	五
片瀬小學校に於ける講話	五
待宵草・圖畫・とうちか	七
改正學校體操教授要目傳達と其後の指導感想	八
教 案 例	九
修身科教授案	一
算術科教授案	一
讀方教授案	一
國語科指導案	一
體操科指導案	一
教授の實際	一
讀方教授の實際	一
我が校に於ける國民精神總動員運動具體的計劃並ニ之が實施狀況	一
構成教育片断(2)	二
兒童生徒作品欄	二
第三十三回關東聯合教育會本縣代議員	二
同 大會概況	二
第二回教育祭	二
教員共済會だより	二
各地通信	二
家庭では斯うして非常時財政經濟に協力しませう	二
編輯後記	二

神奈川縣下に於ける

明治天皇聖蹟を調査して(十二)

聖蹟調査委員 磯 貝 正

(本陣文書四七七)

右之品當宿江御預被仰付隨に奉預候依之一札奉差上候處如件

明治元年

辰十月十二日

保土ヶ谷宿

御小休所御門並板塀其外御座敷向天井□□共被仰付候

本 陣

付御入用

名 主

一、御門惣黒塗

名 主

一、天井拾坪

名 主

一、板塀五坪

名 主

合銀百四十八匁七分五厘

名 主

二、本陣

辰十月十二日

保土ヶ谷宿

本陣にして名主部清兵衛の宅は保土ヶ谷區保土ヶ谷町二千五百九十六番地に於て現主は輕部三郎氏である

名 主

明治天皇八回、照憲皇太后六回、英照皇太后三回御小休あらせられたる聖蹟なるも、元年及二年に御小休あらせられし建物は五年に焼失し、再築の後御小休遊ばされし建物も大正地震災に倒壊して、今僅かに庭園が昔の跡を残すのみとなつて居る。

名 主

(本陣所藏文書四九九)

名 主

奉差上一札之事

名 主

一、御風聲所

名 主

一、御内侍所

名 主

一、御小休御建札

名 主

一、下乗杭

名 主

一、下馬杭

名 主

一、御内儀御女中方御札

名 主

其外

名 主

御手入數個所

名 主

一、御風聲所

名 主

一、御内侍所

名 主

一、御小休御建札

名 主

一、下乗杭

名 主

一、下馬杭

名 主

一、御内儀御女中方御札

名 主

其外

名 主

御手入數個所

名 主

一、御風聲所

名 主

一、御内侍所

名 主

一、御小休御建札

名 主

一、下乗杭

名 主

一、下馬杭

名 主

一、御内儀御女中方御札

名 主

以廻狀申上候然過日は 主上御通達に付御建物出来ニ付御村々々大工其外御遣しに相成宿方におゐても御用辨よろしく忝仕合に奉存候依ては右賃錢御下げ渡相成候間職方之もの江可相渡所聊宛事に付懸々請取に参り候も却而迷惑にも可有之間御傳馬役之衆江なり共職數相記し爲持印形御出し被下候は々同人江相渡可申候此段職人衆御申渡被下候様御頼申上候乍御手數廻狀早々御順達留り御返し可被下候以上

辰十一月九日 保土ヶ谷宿 荏部清兵衛 十二ヶ村

三、内侍所奉安所趾

當宿に於ける内侍所の奉安所といは帷子の牛頭天王社即ち現在の天王町橋樹神社の境内が選定せられた。場所は正面現在の大鳥居のある位置にして、今裏參道にある鳥居が當時こゝにあつたのであるが、小型であつたので之を取拂つて建てたといふ。着工は九月二十日から同月二十八日付の左の如き用材の送り狀がある。

送り狀之事 一八束 増四分板

内 譯

壹 束 尺十三枚入

五 束 尺壹十枚入

壹 束 尺壹七枚入

壹 束 尺貳十三枚入

尺ノ百貳枚三分

右之通差送り申候 以上

九月廿八日 神奈川室田方

程ヶ谷 御普請方御掛中様

(職員所藏文書)

そして建物の準備は出来上り半月の間に立派な白木の御殿が出来上つた。その時の敷地指示に關する達しがある。即ち

御 申

一、天王社内 御内侍所之用 右早々明敷可被成候 以上

十月八日

程ヶ谷宿役人中 神奈川會所

(職員所藏文書)

かくて十月十一日御通達に際して内侍所の奉安があつた。尙職員家には當時の記録として

明治元辰九月廿五日より

○鎮守社地御普請所諸買入品見留帳 一冊

明治元辰歲十一月 日

○鎮守社地御普請所諸拂勘定帳 二冊

○鎮守社地御普請所諸勘定帳 二冊

が保存せられて居るが、内容は省略する。

かくて御用濟となつたこの奉安所は神社へ御下賜と相成つたのである。即ち

御 請

一御内侍所御假殿 其外共

右は

御行宮之節御取建相成候御用濟ニ付其儘鎮守社宮附江被下置難有奉頂戴候依之御請書奉差上候以上

明治元辰十二月十日 何 誰 印

(本陣文書十九)

尙ほ御下賜に相成りし奉安殿は、そのまゝ存置し元年十二月の御還幸、並に二年三月の御再幸の用意に備えてあつたのである。十二月の折には奉安せられたかどうか不明であるが、三月御再幸の折には使用せぬが不意の必要あるかも知れぬ故掃除しておくべき旨の書付あるを以て御使用にならなかつたことは明らかである。かくて御再幸後間もなく取拂ひ遺材は多く神社の修覆に充てたので、現存するものは花肘木と奉安臺一脚とのみであるが、社寶として拜殿

に珍藏せられて居る。この聖蹟を不巧に傳へんが爲に昭和七年記念牌建設の機熟して社務所前の舊趾に高き一丈の石碑が建ち、同年九月十五日落成除幕式が行はれた。

(正面)

明治天皇東幸遺蹟碑

(撰文)

明治中興之元年天皇東幸十月十一日聖駕過程谷縣驛民至誠造營内侍所奉安殿於橋樹神社頭奉迎家祝入慶謳歌聖德以爲曠古之光榮然而百年之後或怖聖蹟之將有歸乎湮滅乃建碑記來由以傳無窮

昭和七年壬申六月

橋樹神社氏子中

(裏面)

題字 有馬良橘

撰文 高島米峯

石工近藤正明

尙ほ昭和十年三月横濱市に於いては市内史蹟名勝地三十ヶ所に史蹟標建設の際當所もその一に選定された。説明文記載左の如くである。

明治元年十月十一日明治天皇御東幸に際し保土ヶ谷宿本陣に御小休の砌内侍所奉安の聖蹟なり

横濱市

明治十年三月

序でに御小休所ではないが、御東幸供奉官員の宿舎に充てられた金子傳左衛門家の家屋手入の費用書上を記して當時の宿内に於ける諸準備の一端を伺ふよすがとする。

明治元辰十月十一日

御行幸ニ付 様御旅宿ニ付所々取繕御入用書上帳

保土ヶ谷宿 金子傳左衛門

一銀七匁五分

是は湯殿直し杉板厚サ壹寸三分壹枚之代



縣指定教科指導

修身科授業參觀所感

教科指導員 神奈川縣師範學校教諭

土 屋 周 作

私は本年初めて指導員を拜命したばかりであるし、且參觀校も數校に出でないのでまとまつた感想は述べられない。かたゞ縣に報告もしない前に、かれこれ申述べるのを遠慮しなければならぬ立場にもある。しかし編輯擔任の方から少しでもとの強ての要望に止むを得ず偶感の一端を申上げることにした。

第一に感ずるのは、一般に修身科の効果に對し理論的にも實踐的にも懷疑的な傾向の窺はれることで、これは實に遺憾千萬である。陶冶勞作に對して信仰にまで凝り固まつてゐなければ本教科の如きは特に其の目的を達成することは困難であると思ふ。

第二、從つて教授に對する自信が薄い。右顧左眄戰々兢々たる態度が時折見受けられる。是非自信を持つて事に臨みたい。

第三、修身科の使命は道德の理法を平易に理解せしめると共に、之を實踐に移し、作法に習熟させ、偶發事項等に就きても相當の批判力を與へることに存する。從つて修身科の仕事はかなり廣汎に亘つてゐるのであるが、參觀する授業の大部分は例話中心の取扱に偏倚してゐることである。折角の公開

研究の授業であるから、種々の部面、色々な類型のものを試みて研究資料を提出して貰ひたい。

第四、事上磨練は直接體驗による徳性涵養の奥義である。日支事變下、特に精神總動員強調週間、精神作興週間、適法週間等國家的行事は一層徹底的に行つて所期の目的を達成したい。この點に關して多少遺憾な節々を見受け

た。

第五、修身科主任指導は校長とか首席指導級の人が多いやうに見受ける。これは他の教科より重要視されてゐるがために一校に於ける重要な教師がこれに當るのだと思ふ。これは大變結構なことである。從つて所説が穩健であるが、他面の缺陷としては、新進氣鋭の人が之の研究の中心に關與しないためか、濃漸たる生氣に乏しい憾がある。もつと若手の教師がこの教科に關心を持つて大いに研究して貰ひたい。

以上は遺憾に思ふ點を思ひつきに列舉したのであるが、他面に於て相當良い點も多々あるが、今はこの部面は述べないで、憎まれ口だけに止めて置かう。

明日の算術教授への希望

教科指導員 神奈川縣師範學校教諭

佐 藤 信 太 郎

新算術書が出てから最早三年、今日ではすでに尋常三年まであのよい教科書によつて、新しい算術教育が施されつゝあることは、まことに御同慶に

堪えない次第である。併しながら教科書は今尙引續き編纂中であつて第四學年以後の教材がどんな風に發展して行くものか見當もつきかねる譯であるが

既に出来上つた尋常三年までの分については教材の撰擇排列並に取扱方針等も明かになつたことであるから此際児童教育に携はる各人は其の直接受持つ學級が高學年であると、低學年であるとを問はず充分新教科書を熟讀玩味して低學年に於ては其の精神を生かす様、又高學年に於ては其の精神を參考として益々教授の効果をあげる様努めなければならぬ。然るに一般算術教育の現状はまだ、不充分的の諺を免れないと思ふ。以下之等の事項に就て感想並に希望を申述べてみたい。

第一、教材の縦の研究

舊教科書に於ては編纂趣意なるものが發行されたので之を一讀すれば大體教科書の精神は判つた。しかも教科書は各教材とも整理の系統に従つて題目が附けられてゐたので教授者にとつては見易い、理解し易い教科書であつた。然るに新教科書に於ては舊教科書のやうにパンフレット式の編纂趣意書はなく且つ教材の排列は大體教理の系統に従つてゐるとはいふものゝ、其の題目は事實内容に従つてゐるので、此の題目だけから其中に含まれてゐる數理を知ることが困難である。例へば「お菓子、門から教室まで、計算練習問題」等とあるこの題目を見たゞけで、二位數に二位數を足して一の位が繰上る寄算といふことは判斷出来る筈はない。そこで先づ教師用書を熟讀しなければならぬ。之を讀んで縦の聯絡系統をしらべて置かなければならぬ。新教科書の教師用書は編纂の趣意は勿論、教授の方法までも詳しく述べてゐる。然るに此の讀むといふことが案外少いのではないかと思はれる。人によつては無論非常によく研究して居られる方もあるが一般にはまだ、熟讀するといふ點に於て不十分である。これではいけない。我々は先づ教師用書をよく讀んで之を研究し、或は表解して見易いものとし、これによつて各學年、各教材の主眼を捉へて誤りのない算術教育を實施しなければならぬ。之等の研究方法に就ては指導の際差上げた印刷物等を參考とせられたら。

第二、教授の徹底

教授は常に徹底的ななければならぬことはいふまでもないことであるが、さて實地の授業を見ると屢々其の徹底度に不十分なのがある。かゝる授業は何となく物足りない感がある。一體教授の不徹底になる原因に二つある。一は教授者の知識の深さが足りない場合で他は其の取扱に當つて徹底せぬ

ば止まぬ確りした精神の缺けた場合である。第一の原因によるものは教授者に其の教材に對する高邁な識見がなく、自信に乏しい。此の點から教授者の修養が非常に大切だといふことが肯かれる。殊に新教科書に於ては其の教材を頗る廣範圍から採つて之を數理的に考察し處理させる様に仕組んであるものが多數にある。之等に對しては教師は児童と同一の水準に立つて眺めるだけでは不十分である。更に二段も三段も高い所から之を眺めて自由自在に處理出来る頭腦で教授に臨まなければならぬ。例へば尋常三年下巻四十八頁に「犬、サル、キジ」といふ教材がある。教師用書一七頁には「順列そのものを指導の中心とするのではなく、條件に適する多くの場合があるときにそれを順序正しく求めて行く考へ方の指導に重點がある。」とあるのであるが教師は先づ、場合の數が即ち3通りあることを知悉してゐなければ自信のある授業は出来ない。殊に自由自在に應用など出来る筈はない。すべての教材に就て教師は常に児童と同一の方法でも出来るがもつと近道な、便宜な方法を知つてゐることが必要である。代數式の取扱に於て、多項式を一次式で割る場合、教師が組立除法を知つてゐることの都合がよい如きは其の例である。教師の知識の深さの必要をしみじみと感じせられることは高等科に於て殊に多く、4の平方根と、14とを混同する如きも其の例である。

次に第二の原因による教授の不徹底もかなりある。或る方法で児童が理解しないならば手を換え品を換えて其の徹底を期すべきである、かくする中に教材の工夫も生れるものである。

第三、暗算能力

低學年に於ける計算はすべて暗算である。尋常三年下巻になつて初めて筆算が入つて來た譯である。新教科書は一般に或一つの理法を授けやうとするときは先づ導入問題を提出して児童をして興味をもつて學習せしめ且つ最も自然に確實に其の理法を理解させやうとしてゐる。かくして後計算の練習に移り最後に此の理法を應用すべき事實の問題を提示してゐる。要するに新教科書は常に理解の上に立つた器械的練習を重視し教科書も隨所に「反復練習」を強調してゐる。しかし児童用教科書の頁數割當から見れば導入問題、難題等の事實問題に比し計算問題が少い様な感があるので時間の配當の如きも動もすれば頁數に比例するといふ様になり勝である。之がため暗算練習が充分でなく且つ練習方法にも工夫が足りないものが見受けられる、暗算は時

間を要することが少いのであるから適當な時間をとつて充分練習することが必要である。殊に高學年まで繼續的に練習すべき基礎教材の如きは充分なる研究と、取扱上の工夫とを要するものである。基礎教材に就ては指導の際差上げた基本練習教材の印刷物を參考とせられたら。

第四、實物、用具の取扱

新教科書はつとめて児童に作業をさせ體驗させやうとしてゐるのであるが、教科書に事實問題が多いので、やゝもすれば児童に面白いお話をきかせるといふことに終始し、児童自身が總ての感覺器官を總動員して算術をするといふ點に不十分な授業を見受けられることがある。これは新教科書の精神を没却するもので、甚だ遺憾である。教科書は數理思想の開發をし、日常生活を教理的に訓練するために児童の自發活動を頗る重視してゐるのである。依て教授に當つては此の點に充分注意しなければならぬ。教師のみが活動して児童を受身の立場に置いたといふ批評は一般參觀者からもよく出ることである。殊に低學年に於ては、實物、計數器、數圖カード、オハジキ等を持たせし教授の際にはつとめて之を使はせなければならぬ。

一般に實驗實測或は實物、カードの取扱の如き作業に當つては先づ用具を机上に整頓して置くやう訓練することが必要である。雖然と置くやうでは到底能率高い學習は望まれない。且つまた教師が一目で児童の作業の正否を知つて指導の徹底を期することも出来ない。依て教師は用具の置場所、並べ方等豫め指定して最も都合のよい方法を採らなくてはならない。例へば尋常一年に於ける數圖カードの如きは先づ机の右端に積み重ねさせて置くとか、或は之を擴げて置くならば雜然と散らすに數系例の順序に従つて並べて置か

せる如きこれである。カードを123……の順序に並べて置かせること、それだけでもすでに數觀念養成に對する重要な仕事をさせてゐることになるのである。

第五、充實せる授業

充實した授業、手ぬかりのない授業は算術科に於ては特に大切である。常に數理的觀察をさせる、數理的に考察させる、といふ様に仕向ける心構が教師になければならぬ。「正雄さんが買物に行きました。十八錢の雜記帳と十五錢の筆とを買ひました。みんないくらかですか。」で終らず、すぐその「五十錢出しました。おつりはいくらかですか」といつてこゝで更に一つ考へさせ計算させる機會を與へることである。

視算算のための板書の如きも、之を無意味に拭ひ去る前に更に他の方面から之を利用し計算させてから消すことが大切である。かく注意すると、同一教材と同一時間に扱つても其の間に注意せざるものに比べて倍の仕事をすることになるであらう。

第六、舊教科書の取扱

舊教科書を取扱ふ學年に於ては常に新教科書の精神をとり入れ、新教科書の取扱を參考にする必要がある。或る數理を授けやうとする際、先づ事實問題から最も自然に導入しやうとする考の如き、或は測定を行はせる際、先づ必要感を喚起するが如き、或はまた測定の結果を表にさせ、又はグラフに表はさせて考察、研究させる如き、何れもよい參考である。殊に高學年では更に實驗的取扱、作業的訓練、等に力を入れなければならぬ。

片瀬小學校に於ける講話

(十一月十八日讀方)

教育指導員 神奈川縣女子師範學校教諭

秦 芳 康

國民精神總動員の折柄、本日茲に讀方教育研究會の催されました事は、誠に意義深いものと思ひます。當校がその研究の任に當られて、この現下の繁忙の中にあつて準備をし、研究事項の整理をし、授業を公開された事に對して敬意と謝意を表します。猶、本郡の校長各位、各校の讀方研究部員諸君が

かく多數參加され、加ふるに町の方も朝から御出席下さつて、こゝにも總動員の情景が展開されました。各位の御熱心に對して深く敬意を表する次第であります。この機會に、國語教育、特に讀方教育に關して私見を披瀝して、これによつて私の職責を盡くさせて戴きたいと存じます。

擬本日申上げたい事を二つの部門に分けて豫めお示し致しますと、その一は現下に於ける本縣の讀方教育の動向といふこと、第二は本日の御授業に直接關聯して所感及種々御提出に相成つてゐる質問に御答へすることであり

先づ第一部の縣下讀方教育の動向について申述べます。縣の委嘱により地方を巡回し乍ら感ずる事は、讀方教育が近時大いに本道に乗つて來たといふ事であり、それは如何なる點についてあるか、本日申上げたいのはこの點についてであり、このお話の中に縣下の動向といふと大げさですが、それをお聞き取り願ひたいのであります。形式と内容の融合といふ事が久しい讀方教授實際上の問題でありますので、これを手がかりとして申上げてみたいと思ひます。形式と内容とは元々二元的に考へべきでないといふ事は教授者の常識で、そして内容を重んずると同時に形式を重んずべきであるといひ、兩者を融合させねばならぬと誰もが論ずる。そして實際の授業について常にこの問題が批評に上り、私も諸所でこの問題に關して口にしない事はないのであります。私は各所で形式方面に力を盡すべきを力説しました。形式を重視する餘り折角築き上げて來た内容教育が破壊され、昔の所謂形式主義へ逆戻りせぬかと心配し乍らそれを續けて參りました。かくて漸次形式方面も重んぜられて來るのを見ながら常に何かまだ嫌なぬものがあるものであります。然るに昨年一年を隔て、本年度、特に事變以後はこの一致が自然に深まつて居る様に思はれる。形式も重んぜねばならぬからといふ事で、内容教授の中に無理に不自然に形式をわり込ませたとはいふべきでないものでなく自然兩者が共に行はれる傾向になつて來てゐると感ずるのであります。この點を私は本道に乗つて來たと申すのであります。

文に於ける形式と内容といふ事については今更申述べざる迄もない事ですすが、形式の内に入れられたものが内容であります。つまりこの「ふらすこ」は形式で中の水乃至空氣が内容であります。この内容は文で申せば思想感情

待宵草・圖畫・とうちか

教科指導員 神奈川縣師範學校教諭

川口雄男

ぼつとやるせないさやかな音を立てて咲く待宵草を河原の芝生にころが

つて、いつまでも開花をまつてゐた少年の日の追憶であります。これは正直

なところ縣下小學校圖畫經營三ヶ年の待望であります。

圖畫經營は口で申せば簡単ですが仲々むづかしいものです。

私達はやはり飛べる飛行家でありたいものです。飛行服に身を固めながら飛行機を操縦する術は知つてゐながらまだ一度もとんだことのない悲しい飛行家であつてはならないと思ひます。先づ高等飛行は専門家にまかせても大空を自由に飛翔することの出来る腕前をもつてゐなくてはならないと思ひます。

縣下をまはらせてゐたいて感じたことは、仲々積極的に該科の實踐的な研究をやつて下さるやうになつたことです。それだけ實際成績を向上しました。しかし一般に低學年と高學年の圖畫經營の工夫と研究をもつともつとやつてゐたゞきたいと思ひます。圖畫教育の實用化とか、生活化はそれから後に生まれるものです。特に低學年の思想指導の研究など圖畫の生活化の問題としても重要なものでせう。私達はただ經驗的な不確實な根據でなく今少し科學的根據に立ち指導の體系を確立させてゐたゞきたいと思ひます。既にこの方面の實踐的研究がはじめられてゐるところもあつてとても嬉しく思つ

改正學校體操教授要目傳達と其後の指導感想

教科指導員 神奈川縣女子師範學校

小幡安

一、要目の沿革と我が神奈川縣

第一次 要目

大正二年一月始めて學校體操教授要目が公布され、本要目により我が學校體操界の混沌状態も漸く解決の曙光を見るに至り全國一齊に其の研究實施に努力するに至つた。此の時本縣には師範學校に木庭源藏先生來任早々の事として新進の研究もて縣下各地の講習會に蘊蓄を傾けられ其の普及に努力せられたのである。

ついで縣には指導員として木塚長次郎先生來任あり横濱市には欽本政吉先生を迎へ縣下體操界に非常なる活氣を呈しよく體育向上に奮勵せられたのである。然し本要目は殆ど瑞典教育體操の輸入で技術方面のみの模倣が多かつ

であります。過去の讀方教育はこの思想感情の陶冶に力を入れてたしかに効果をあげました。今の子供は私共の少年時代に比して或意味で思想的に深まつて社會に出てゐます。然るに形式の方面が不足で、手紙も書けぬとか、字も碌に書けぬとか、人間がどこもしつかりして居らぬと社會から指摘されてゐる。思ふに思想感情の陶冶によつて形式方面の教養不足があるとすれば、内容自身の陶冶が充分でなかつたのではなからう。私はその當時考へた思想感情なるものが果してどんなものであつたかと考へるのであります。理論としては文意をよみ、更に形象を見る、文意と、その相――象徴の匂ひまで讀みとらせる事にまで及び乍ら實際の授業に於てその理想に及ぶべくもない。私には當時その思想感情なるものがあまりにも時代色の濃い主觀的のもので國語教育に於て目ざすべき本質的のものではなかつたのではあるまいかと強く思はれるのであります。

當時の所謂思想感情は西洋の個人主義に根ざす自由主義的のもので大和民族の思想の根柢から生ひ出たものでなかつた。この自由主義は個人主義を本とし、殊に歐洲の戦後に於ける感傷的平和主義の思想やそれとをとり卷く人道主義や文化主義の思想も、日本の好景氣の心の隙に乘じて唯物史觀を生ひたて、内に異様な魅力を感じて思想界を蹂躪したかに見えます。日本的のものを忘れた抽象的な概念的な人間生活が、空中に描かれた樓閣の様な魅力で以て知識階級に追求された時代です。かゝる空氣の中に育つた思想感情には國定教科書の文章はびつたりしたものではなかつたのは當然と云はねばなりません。その當時國定教科書が非難されその改定を迫られた事はありません。かくて教授者の所謂内容(思想感情)は教科書の文章に盛られてゐるのではない。教師は授業に於て教科書の文章に於ける思想感情を授けてゐるのではなく教師のかゝる、時代的思想感情を注入する事に急なのであります。而もかゝる思想感情を文章からくみ出さぬ教師は時代におくれた感を以て見られたのでした。(夫)

てゐます。高學年の圖畫のひどいことは(失禮な申し分ですが)お話にならず、智能教科萬能の悲しい時代現象を到るところで見ますので目をおぼひたくなります。表現材料が水彩繪具に變つたから成績がおちたといつて水繪具の罪になることが多いですが、水繪具こそ氣の毒なものです。特に都會地方ではもつとしつかりやつて下さい。

圖畫の施設なども悲しいですね。實際しつかりやらうと思つてゐる人でも施設がないのでとても困つてゐます。武器を與へないで戦争をやれといふ悲劇なんです。何とかもつとならないのですかね。武器と時間さへ與へれば堂々戦へる勇將が縣下到處と大勢居るわけですが、肉彈戰の連續で全く疲れ切つてゐるお氣の毒です。「とうちか」的圖畫施設の必要は目下急でありませう。普通一般の施設位は是非やるべきだと思ひます。尙小學圖畫にある教材位は備へておいて下さい。先づ武器を與へよ。而して研究の時間を與へよ。さらば戦はん哉。とにかくしつかりと大にやらうではありませんか。春の日を待つ朝北の人びとのやうにじつと目を据えていたいたい冬の營みをこらへつづけやうではありませんか。

た爲理論的にやゝ空虚を感じた。この時九州帝大教授醫學博士櫻井恒次郎先生によつて専門の解剖學上より體操を研究せられ所謂合理的體操學を斯界に鼓吹して吾が國體操上の理論及實際方面に多大の貢獻をなしたのである。吾が神奈川縣に於ても直接先生の講習會を鎌倉小學校に開催して其の指導を受け尙横濱市には先生の門弟今井學治先生指導員として着任せられ縣下に合理的體操の聲が盛になつた。

第二次 要目

然るに其後内外共に各種の運動競技の隆盛に伴ひ學校體操教材として遊戲及競技行進遊戲等の要望の聲おこり遂に大正十五年七月次の如き方針によつて第二次改正要目の公布となつたのである。

一、學校體操の特質を發揮すること。

二、體操科に於ける體操の使命を考慮して體操科の要旨の達成を一層完全ならしむること。

三、諸外國の狀勢に鑑みると共に我が國の國情に留意すること。

四、學術及經驗を重んじ急激なる變化を避くることに留意して立案すること。

五、教授の方法を一層容易且適切ならしむること。

六、教練振作の精神を體して立案すること。

七、遊戲及競技の教育的價值を重視し初等中等の凡ての學校の教材に取入れたること。

八、遊戲及競技の正しき指導の必要を認め遊戲及競技に五種の分類を設け各分類には多くの教材を精選したること。

此の當時縣は學校衛生技師今井忠宗先生を中心に男女兩師範教諭により女子師範及平塚小學校に要目傳達の講習會を開催し其趣旨の普及を計り、次年には要目調査委員佐々木先生に縣下五ヶ所の指導を乞ひ一層徹底を期したのである。

爾後男女兩師範中心となつて時代要求に應じ縣下にその効果を發揮した特に昭和五年度には縣下小學校體操總動員とも申すべき巡回指導講習會を開催したのである。其の趣旨は本縣小學校に於ける體育は時代の趨勢と過去數年間に亘る諸種の施設と當事者の努力とに依つて長足の進歩を見るに至つたが一方競技運動の勃興と共に競技熱非常に高く稍々もすれば體育運動は特殊化され競技萬能は叫ばざるまでも事實に於て其の弊に陥りつゝあるものが無きにしめあらずと云ふ状態になつた。茲に於て健全なる體育の振興を圖り本科教育の使命達成の爲に此の施設を致したのである。

縣下五十個所に各學校一學級乃至二三學級の兒童を召集し午前中は實地授業並に講評をなし午後は當直員をのぞく校長以下全教員を出席させて要目に依り實地の指導を行つたのである。

第三次 要 目

然るに我が國の體育は實に躍進的に進歩發達し之を大正十五年頃に比べるとその情勢に著しい變化が認められるに至つた。即ち各種體育運動の實施が益々盛大を加へたことは勿論、一面之に關する各種の研究も亦大いに進み、更に社會各方面の體育に關する認識が大いに深められ體育の價值が一層重視

されると共に教育に於ける體育の分域とその重要性とが著しく擴大されたのである。尙直接には體育指導者の素質は向上し生徒兒童の力も大いに進み、さらに體育施設も相當に備はり、體操科の教材たる各種運動もすでに諸外國の長所は採入れ消化すべきものは消化しつくしたのである。

而て最早何時までも外國模倣の秋ではない。三千年の歴史が生んだ國民生活に根柢をもち、吾が國民の體質體格を向上し、日本精神を高揚し永遠に伸びゆく日本独自の體操建設の秋はきた。

此の情勢に鑑み昭和十一年六月熱望の主要目は公布せられた、其の魂は。どこまでも一流一派の主張や特徴を超越し日本民族發展に根ざす日本體育運動體系の確立であるのである。

從來動ともすれば技術の末に走つた本科の指導を、身體的修練と同時に精神の修養鍛練を要求し「人格を陶冶するに於て遺憾なきを期せられたのである」これ本科の獨自性を益々發揮せる所以で「情意教育」に於て他教科の追從を許さない點である。

この改正要目を形式上と内容上とに區別しその項目を列舉すると。

○形式上

- 一、劍道及柔道の要目を附加したこと。
- 二、體操科の教材の項を簡略にしたこと。
- 三、教材の學年配當を二學年共通としたこと。
- 四、體操に於て號令を規定しなかつたこと。
- 五、名稱を出来るだけ國語に改めたこと。
- 六、教授並に教材配當上の注意事項を整備したこと。
- 七、遊戲及競技の分類が變つたこと。

○内容上

- 一、教材の取扱に彈力性を與へたこと。
- 二、活動的な運動を増加したこと。
- 三、運動の内容が豊富になつたこと。
- 四、我國固有の運動を加へたこと。
- 五、運動に男女の特徴を發揮させたこと。
- 六、遊戲及競技の教材が發展的に配列されたこと。
- 七、競技を遊戲化するの精神を現はしたこと。



教 案 例

修身科教授案 (十二月教材)

神奈川縣師範學校訓導 中 村 隆 秋

(一) 教材 朋友 尋常小學校修身書卷五

(二) 教材觀 具體的理想で有る例話内容を大觀するに、前半は九歳頃より三十歳前後に至るまでのよく貧困と戦ひ刻苦奮勵して學に勵みし白石の苦學で有り、後半は本例話の主題である加賀侯への仕官を、加賀出身の學友岡島に譲るの白石の友情で有る。白石の苦學は兒童の年頃と同じ頃の體驗で有り理解もし易いもので、更に白石の意志堅固なる不屈不撓の強い人格を知る爲めに重要な部面で有る。強い性格と貧困なる境遇を理解してこそ、岡島への友情が生きて來るので有る。貧困の中に成長すれば主我的

る。

昭和十一年度には縣下四ヶ所に於て各學校體操主任諸君と共に炎熱と戦ひ毎日午前八時より午後五時まで八時間日もこれ足らずの三日間、この要目を中心に教へる者は教へらるゝ者。教へらるゝ者は教へる者、と師弟一如となつて精進したのである。この精進こそ縣下小國民の心からわくすきな體操。おれの體操の根源である。この兒童生活から生れ出る體操こそ。永遠に伸びゆく日本體操であらねばならぬ。(つゞく)

の體驗で有り、年齢から云ふも相當の隔り有り、仕官就職は生活體驗に無く、直接に物質生活から受ける苦惱を強烈に感ずることなどは無い故に、理解が困難なる部面も有り得ると思ふが、指導者の具體的な説話によつては十分に情意を動かし白石の内面眞情に觸れることが出来ると信ずる。

(三) 目的 新井白石の人格を通じて、具體的交友生活の理想で有る岡島石梁に對する白石の友情を理解せしめ、朋友に對しては互に交誼を厚くすべきを覺らしめて、御聖勅の「朋友相信」の精神を實踐せしむる。

(四) 區分 第一時 具體的理想の展開 第二時 實踐指導

(五) 教授過程

(1) 交友生活の反省(強烈に内部的動力を喚起する)

(イ) 友達はどうしなければならぬか。

恐らく全兒童が「仲よくせよ」助け合へ」と異口同音に答へるであらう。

(ロ) 實際仲よくし助け合つて居るか。

實際は知ることの反對で「意地悪」喧嘩」の例が主要なる部分を占め積極的方面は少いであらう。

(ハ)何故さうなるのか。それでよいのか。
知的な解答としては「友の恩」を知らないから一般的には「ついでつて終ふ」等が多いと思ふ。
こゝに於て自己の生活の中の非道德的價值意識を直觀させ道德的向上の動機を構成せしめ、次の具體的理想に一體觀を起さしむる精神的態度を醸成する。

(2)具體的理想の展開……境遇言行を通じて實想を理解せしむる。

(イ)「九歳の時から、日課を立て、學業に勵みました」

自分で時間表を作り其の通り實行する。
ねむくなると水をかぶり自ら勵む。
十三歳の時殿様の御手紙の文を作る。

◎志の堅い實行力の強い少年であり學業の進歩も随つて早いことを理解せしむる。

(ロ)「木下順庵と云ふ名高い學者の弟子……貧苦をこらへて……學問が深くなりました」

幕府の儒者としての木下順庵の社會的地位。
明日の食物にも事缺く程の極貧に居て勉學する白石の學業の進歩。

遠く江戸に遊學する學生の希望。

◎極貧洗ふが如き生活の中に居て「大丈夫生れて封侯たらずんば死して閻魔丈王たるべし」の志をいだき立身出世を心に誓いつゝ現在の貧困を物ともせず學業に専念する闘志満々たる白石の強烈なる意氣を知らしむる。

(ハ)「白石を加賀侯に推薦……白石に告げました」

◎大藩加賀に恩師に推され仕官する白石のよこび知るべきで有る。卅年間の努力むくもられ、これで

極貧の生活も終を告げ思ひのまゝに活躍出来る地位を理解せしむ。

(ニ)「岡島石梁……加賀は私の郷里で家には年よつた母がたつた一人で、私の歸るのを待つて居る……私が加賀侯へ仕へることが出来たら母もどんなに喜ぶだらう」

郷里に對する我々の愛着の情。

一人の息子を遠く江戸に遊學せしめ錦をきて歸る日を淋しくも雄々しく待つ母の心。

岡島の喜びは云ふに云はれず、母も。

◎岡島の國を思ひ母戀ふ至情を理解せしむ。

(ホ)「私の仕へますのはどこでもよろしうございませす……私の代りに岡島を……」

なつかしい郷里を持ち、慈しの母親の待つ岡島への同情。

歸るべき故山なく、待つべき兩親なき白石。友の喜びを我が喜びとする白石の意氣。

◎闘志満々たる白石にもこの友情有り。仕官と共に郷里に錦をかざり母を喜ばせる事が出来れば君ゆくべしと、衣食に事缺く白石が喜んで友に仕官をゆづる友情涙なしには居られない。

(ヘ)「甲斐侯に仕へ……侯が後將軍……に重く用ひられました」

◎善因あれば善果有りを理解せしむ。

(3)感想發表……感想發表の質によつて教授効果を反省する。

算術科教授案 (十二月教材)

神奈川縣師範學校訓導

藤 平 威 治

一、學 年 尋常科第二學年 男組
二、教 材 尋常小學算術書 第二學年下巻

三等分、六等分、九等分

(兒童用書、第十五頁—二十一頁)
(教師用書、第二十八頁—三十一頁)

三、教 材 觀

(1)、教材に就いて

教材に就いては教師用書第二十八頁より第三十六頁迄に、又兒童用書第十五頁より第二十一頁迄に詳述されてゐるので特別に取立てる程の事もない。然し教師用書の趣意に依つて、教授上から見るならば、第一は三等分、六等分、九等分の觀念を如何にして養成したらよいか、第二は

三等分、六等分、九等分の觀念を如何にしてこれ等の除法形式に導入したらよいか、第三は除法形式を如何なる方法によつて練習せしめるがよいか、第四は得たこの觀念を、事實に適應せしめるか即ち算術的考察をせしむべきか等に綜合することが出来る。従つて以上の觀點に立つて教材を眺めることが本教材の趣旨を貫徹せしめる所以である。

第一の三等分、六等分、九等分の觀念は勿論全體教授後に於て會得し得るのであるが先づ教科書の如く紐を三等分、六等分、九等分せしめる作業とが、或は方眼紙(三、六、九等分に都

合よきもの)を等分せしめること或は又計數器を用ひて實證的に三、六、九等分せしむる等の作業を通して等分の觀念を自然的に與へる様指導すべきである。

第二の等分觀念を形式に結びつけるには前作業に依つて等分し得た數量と全體、或は又等分しようとした數と等分して得た數量等と考察して掛算九九を用ふれば容易に求め得られることをさとする様指導し然る後除法形式へと自然に導くべきである。即ち第一指導の作業と第二の教授と大いに關係ある取扱でなくてはならない。

第三の除法形式の練習は式題を課して商を見出す練習から表をみて發見せしめる方法、更に口問口答し得る如く指導しなければならぬ。第四は、實問題を考察せしめる事によつて算術的考察に慣れさせ更に作問指導を課することにより一層正しく算術的考察をなし得る様教授すべきである。

(2)、連絡及教材順序變更に就て。三、六、九等分するのは稍難い事であるが然し前に二、四、八等分を習つてゐるのでこの教授と大いに連絡すべきである。教科書には三、六、九等分を同事に作業する様に提出されてゐるが三等分した後十七頁の形式に入り然る後六等分、九等分と別にした方がよいと思ふ。

(3)、作業せしめるには、準備する用具及作業順序用具の取扱法等は工夫的に又創造的に取扱ふべきである。

四、目的、紐を三、六、九等分する作業から入つてこれ等の等分の觀念及圖形觀念を與へ、三、六、九等分の方法を會得し、更に數を割る法に慣れさせ

事實を算術的に考察し處理する様指導する。本時は三等分の觀念と三等分する除法計算に慣れさせるのが主眼である。

五、準備(本時分) シデ紐、物指、ハサミ。
六、教材區分。

第一時 (本時)紐の三等分、三で割る計算。

第二時 圖形の六等分、六で割る計算。

第三時 九等分實習、九で割る計算。

第四時 事實に即して數の等分練習。

第五時 既授除法の機械的練習。

第六時 條件に従つて旗を作ること。

第七時 單價を求めること、一行の字數を求めること。

第八時 九等分の實習と形の構成作業。

第九時 等分して一つを求める問題の構成。

第十時 事實に即して問題を構成し解くこと。

七、教授過程

(1)、基本指導

A、既授二、四、八等分觀念整理(口問口答)

B、掛算九九(三〇算)

(2)、中心指導

國語科讀方教授案

韻文の情調的取扱試案

神奈川縣師範學校訓導

石 井 正 夫

◆研究目標 韻文教材の情調的取扱

(1)、韻文の讀みは「朗讀」によりて味はひ深め深め味はひ「朗誦」の境地にまで高揚したい。

(2)、事象情緒等の論理的分析的な探究精査による

讀解指導はとすると、詩情、詩心の持つふよかな感情を抹殺する懼れあるに鑑み、努めて讀みを基調とする情感に依據し、素直にして自らなる詩的情緒の把握をなさせたい。



教授の實際

讀方教授の實際 (山羊)

芦 田 惠 之 助

去る十月二十九、三十兩日に涉つて國語教育の權威者田惠之助先生が三浦郡北下浦村尋常高等小學校に來校されて指導授業なされた。本記事は先生會心の授業であつたと御自身喜ばれた「山羊」の教授實際である。この様な得難い記事を同校長吉永俊の御厚意によつて本誌に頂くことを得たのは幸甚と思ひ厚く御禮申し上げる次第である。

第一時 授

一、よむ

そのままで御挨拶しませう。此の時間と明日山羊の所のお稽古をします。此處は九つに分れてゐますからごく短い所もありますが長い所もあります。九人づゝ二回讀んだら十八人明日又讀んだらこゝまでみんな讀めるかも知れない。さ後から讀んで。

○一段 草を刈つていらつしやるおとうさんの所へ、お手傳ひに行きました。(師、教卓上の教科書にじつと目を落してゐられる。)○二段 刈集めてある草を、山羊にやらうと思つて、私は、兩手で持てるだけ持つて、山羊小屋の方へかけて行きました。「どうして靜かなのだらう。」と思つて、のぞいて見ると

山羊は一匹も居ません。○三段「あゝ、さうだつた。」私は、大きな聲でひとり言を言つて、裏へ廻りました。稲が刈られたので、きのふ、たんばに柵を作つて、山羊の運動場をこしらへてやつたのでした。○四段 親山羊は、柵のきはに、秋の日をあびてすわつて居ましたが、私の足音を聞きつけて、すつくと立上りました。向かふの方で遊んで居た二匹の子山羊は、鳴き聲を立てながら、こつちへかけて來ました。さうして、三匹とも、前足を柵にかけて立上りました。○五段 草をどつさりと授けてやると、三匹が頭をくつつけて、おいしさうにたべ始めました。○六段 親山羊は、去年のちやうど今頃、遠い／＼山國から、汽車に乗つて來たのです。月夜の晩に、此の村の停車場に下された時は、どんな心持がしたでせう。其の時、おとうさんと私と、停車場まで迎へに出てやりました。○七段 今年の春、此の二匹の子山羊が生まれました。今では、もうお乳を飲まなくなりましたが、生れた頃は、乳房をくはへて、うまさうに、すつばすつばと吸つて居ました。さうして、子山羊が飲んだ後で、おとうさんは、お乳をしぼつて、私たちにも飲ませて下さいました。

夏休過ぎから、子山羊に乳がいなくなつたので、私たちは、毎日、たくさん飲むことが出来るやうになりました。○八段 ぼんやり、こんな事を考へて居ると、「道子は、ほんたうに山羊が好きだね。」といふおとうさんのお聲。ふり向くと、私の後に、おとうさんがにこ／＼しながら、立つていらつしやいました。○九段 すつかり草をたべてしまつた山羊は、やさしい目をしながら、又寄つて來ました。親山羊の白いひげの下を、一匹の子山羊がぐぐり抜けて、柵に前足をかけながら、私たちをじつと見ました。今讀みなすつた九人の人は本當にうまい。本當にうまいのは、つかへないで讀むのがいいのではない。中に書いてある事を考へながらよむ人がうまいのだ。今の中で一つ讀みそこなつた。がの字がおちた。(最後の「子山羊」の「が」を抜かしたのを御注意。)三年生は三年生のやうに、先生も今朝よんだが六十五らしくよむ。それがよいのだ。もう一度中に書いてあることを考へながらよみなさい。九人讀ませ讀について左の注意をされる。

二、話しあひ

よるしい。さあ、題目板書(山羊)。山羊です、ね、山羊を見た事のある人(全員舉手)うん、よるしい。山羊を何故飼ふか知つてゐる人(舉手なし)此のへん飼つてある家あるか、山羊を何故飼ふのかそれは皆さん考へなければだめよ。(ぼつ／＼舉手が始まる)あなた。○珍しいから、×うんこれはよい。こゝういふうにゐる人もある。まだ、あなた○かはいいいから、×あなたは○見るのに楽しいから、×

それも前と一しよよ、×あなた○女の子が山羊が好きだから、×やつぱりそれも前と一しよ。考へて讀みなさい。書いてある。あなた○目がかはいいいから×それもいゝ。その答大好きだ。先生が言つたらあゝ何だそんならなんて言つてはいけないぞ。道子さんお乳飲んでるだらう。此の中に牛乳飲んでる人あるか(舉手なし)牛乳飲む代りに此の乳飲むのじや。子が生まれれば賣るのさ。だから遠い山國からお金をかけてつれて來 飼ふのさ、では一寸本の繪を見てごらん。此の子の名前を知つてゐるかね。道子さん×此の子がかかへてゐる草は誰が刈りなすつたの、○お父さん、×お父さんが刈つた草を持つて來てやることはお父さんに對して何になる、○お手傳です。×もう少し立つと此の後へ來て立つてゐる人だれ、○お父さん、×山羊は六つの目を見てゐますか、○お父さんと道子さん、×お父さんと道子さんは山羊を見てゐるのね、兩方の目はどんな目だと思ふ。○やさしい目です、×さう、そのやさしい目を見つけるのが一番大切なことよ。先生が一べんよむ。よく見てゐてごらん。先生は心持を考へながらよむよ。其の代り早く讀まないゆつくりよむ。

三、よむ

一字々々力の入つた讀聲朗々と響き、兒童參觀者共に聴き入る。

兩手で持てるだけ持つて(山羊に澤山やりたいのよかはいいから)のぞいて見ると、(山羊小屋をよ)ひとり言を言つて、(自分だけに言つたのよ)山羊の運動場をこしらへてやつたのでした。それで山羊小屋にはゐなかつたの。前足を柵にかけて、立上りました。次のゑが此の繪だね、こゝういふ風にしたつてゐる)おいしさうにたべ始めました。(その食べ始め

たのを見て道子さんは思出をしたのよ、皆さん山羊の思出といふのを知つてゐるでせう)どんな心持がしたでせう。(箱の中にはいつてゐたのね)迎へに出てやりました。(これが親山羊の思出よ)すつばすつばと吸つてゐました。こりやいといところさ、皆さんだつて同じこと、お母さんのお乳をすつばすつばと吸つたのよ、皆さんの事考へると直ぐ分る)私たちにも飲ませて下さいました。(生れた時分の事を思ひ出したのさうすると道子さんと山羊とは乳兄弟ね)お父さんのお聲。(其の事ばかり思つて見てゐたので分らなかつたのね)さ、これから書きなさい。先生が言つてあげるから、お帳面に。皆さん線を引く事を知つてゐるなら引きなさい。よく考へられる。此の線は山羊の文章全體よ。これを九つに切つて書きなさい。

1) お手傳ひ

2) 山羊小屋

3) 運動場

4) 親山羊

5) 草

6) 去年

7) 今年

8) 親

9) 子

10) 目

11) 手傳ひ

12) 訂正

13) さあ

六、とく

×道子さんがお父さんの來なすつたのも知らずに思出にふけるといふのね。それはどこでせう。×お手傳、×もう一べん、先生が問ふたのが分らなかつたのかも知れん。一段から九段までの間で道子さんがお父さんの來なすつたのも知らない程、思出をしてゐるのは何處かを聞いてゐる。六段と七段です。×さうこゝが名前をつけると思出となるの、山がらの思出といふのあつたらう。それでは去年の何の思出(板書をさしながら)○山羊の事、×山羊の事は違ひないがこれを分けてはいないと、○去年のちやうど今頃、遠い／＼山國から、汽車に乗つて來たのです。×うんそれを分けて言はないとどうつとす

る。○親山羊、×さう親山羊の思出、では今年の春の思出は何のこと、○子山羊、×さうこゝういふ事を思出すのが思出よ。それではお手傳してゐる所は何處から何處まで。考へてゐると讀方のお稽古は面白いのよ。○一段から五段までです。×よし。えらいことを言ひなすつた。草をどさりと授けてやるのは山羊がかはいいいからなのだがお父さんのお手傳になるのです。×山羊小屋へ行つてのぞいて見たら靜かだつたのね。何處へ行つたの。○運動場、×誰がつくつたの、○お父さん、×何處へ作つたの、○田んぼです。×さう田んぼへ柵を作つてこしらへた。その山羊は何してゐた。○秋の日をあびて、すわつてゐました。×子山羊は、○向かふの方で遊んで居ました。×さう、そして道子さんの方へよつて來て草を食べ始めた。その間に道子さんは思出をしたの人は思出をする事がとても楽しみなもの。頭をつきはせてたべてゐる山羊、親山羊は去年の今頃遠い所から來た。子山羊は今年の春生れた。そしてその

乳をもらつて飲んだ。こんな事をお父さんがいらつしやつたのも知らない程に思ひ出してゐた。こんなに道子さんが山羊にみとれて一生けんめいになつてゐるのを見て、お父さんはどんな氣持でせう。○うれしい、×何が、○道子さんが山羊をかはいつてゐるからうれしい。×さう、道子さんが山羊をかはいつてゐるやさしい心持がはいいのね。そこでお父さんは感心しきつて、「道子は、ほんたうに山羊が好きだね。」と言つたのです。そして草を食べてしまつた山羊をお父さんと道子さんが一つ心になつて見てゐる。山羊の方ではどう、○道子さんを見てたの。×その答よ。親山羊と子山羊がやさしい目つきをして、こちらを見てゐるの、お父さんと道子さんも親子だね。親子がかわいい目つきをして見てゐるさるの、するとここに目が幾つある。○三つ、×お父さんと道子さんの目が二つ然し四つあるのよ、二つだつたらかたは（兒童くすくす笑ふ）山羊の目が三つ然し六つあるのよ。この目と目の合つた所を考へたら美しいの。私は今朝こゝを讀んで見て此の目がともきれいだなあとと思つたね。さ、時間が過ぎたが此の氣持で一度よんでごらん。だれ、三人讀ませたが、三人とも讀み始めにはいといふ返事をするのでよむ心持がとぎれるからと御注意なされる。注意あつて後五人に讀ませる。よし、明日はね此の思出の所をようくりやります。よんで來なさい。お手傳の所と目の所をあつて受持の先生にやつてもらひます。そのまゝ御挨拶ませう。

第二時（午前十時五十一分始業）

一、よむ
そのまゝでございさつしませう。讀んで來ました

か。今日は誰だつたかね（山田さん舉手）よんで。各段一人づつ都合九人に讀ませる。六段目に讀んだ兒童に「其の時をこの時と讀んで注意」

×うんさうさ、今年の春どんな事があつた、○子山羊が生まれました。×生れた頃にどんな事があつた、○お乳をすつば／＼と吸つて居ました。×うん此の中にお母さんのお乳をさぐりに行く人は無いか。お乳はともいものよ、先生もお乳を飲んだ事を思出す。一番おしまひに先生何書いたか（舉手二人）

二、復習
よろし、もう一回よんだら全部よめるのね。昨日言つたおさらいをよくやつて來たね。讀みのよくよめるのは聞いてゐても氣持よい。さ今日はね、おさらいを先づしてゐて、先生板上に一線を引きつゝ）×一段から五段まで名前をつけたのを覚えてゐるか。○お手傳です。×六段から七段まで澤山書きたいから廣く取つておいたが何の所だか分つてゐるか。○思出、×うん山がらの時にあつたらう。あとになつて思ひ出す。それから九段九段これは何、名前をつけ

三、よむ
兒童、參觀者一同ひたすら師の讀聲に耳を傾ける（紙數の關係で着語略す）。

たかな。あなた、○やさしい目、×その目が澤山あつたらうお父さんと道子さんと山羊三匹の目、どの目もやさしい目でした。×一寸皆さんに聞いて見るがここ何書いたか言へるかね（一段の所を手でおさへ乍ら質問）○お手傳、×さう（一段の下へ手と書かれる）×こゝは（兒童帳を見る）帳面を見ちやいけない。そんな卑怯な事は駄目自分の頭で考へて○山羊小屋の方へ、×うん山羊小屋と書いたね、次○運動場、×ひとり出に出て來るさ、お話を考へてゐれば、こゝは、○草、×うん草はこれじや（と）言つて五段に草と書く）其の前、○親山羊と子山羊×さう（親子と書かれる）これは描へて書いたのじやが、こゝは思出の所何書いたか覚えてゐるか。○去年、×さう下はつかへますから上に書きませう。去年何が來たの、○山羊、×何處から、遠い／＼山國です、×何に乗つて、○汽車に、×此の次には何書いたか、○おとうさん、×うん遠ぶおとうさんはここだ。（八段にかく）その後、○今年の春、

（紙數の關係で着語略す）。

1	手	1098	四、かく
2	山羊		さ六段と七段の漢字を書きなさい
3	運動		空で書く、困つたら先生の方でも本でも一寸見なさい
4	親子		其の代り見た字は一寸しるしておきなさい。さ先生が言ひますからやつてごらん。三つか四つしか、しるしがなかつたらよい人よ。（六、七段漢字の全部書きに
5	草		
6	親山羊、去年今頃		
7	遠山國、汽車乗來。		
8	月夜晩、此村停車場		
9	下時、心持。其時—私停車場迎出。		
10	今年春、此二匹子山羊		
11	生。今—乳飲、生頃、		
12	乳房、—、吸居。		
13	おとうさん		

さこれで漢字を見て思出の所を空で言へるかね。二分ばかりひまをやるからよく考へてごらん。

五、よむ
さ、本をふせて、あなた（長島君代さん）だけ本をあけてゐなさい。先生がやるからつまつたら教へて下さい。あなた先生よ。私は年取つた先生（兒童參觀者くすくす笑ふ。室内和やかな氣分漲る）やつて見よう。一つ違つたら一點引かう二つ違つたら八點よ。八つ違つたら二點よ。よく見てゐて下さい。その代り先生がやつたらみんなもやるのよ。よろしいか。（君代さんはい返事したので一同笑ふ）待てよはいは有難いが間違ひさうだな（おとうさんと私とを私はと讀み君代さん注意す。）×よし一つとられたぞ（よみ終へる）×よろしいか、一點違つた九點だね。誰かやれるか、よし半分づつにしてやらう。一番向かふの人、○（今では今はと讀み注意）×よし伸がよいね、先生の仲間さ先生のつれよ。（こゝ言ひながら9の横に1をひかれる）よし其の次やつて○（外の兒童が小聲で言ふのを注意、トメさん二つ違ふ）×八點こりや先生より下だね（8と書く）

×それじや先生やつてごらん、○長島君代さん、×よしこれは先生じや（室内笑聲起る）一〇點（10と書かれる）×その次、○（乳房をチヂチヂと讀み注意）×これも一〇だ。さ皆一しよにやつて、言へない所は言はなくてもよい。（指で板書をさす）うまいね。それでよい。その聲とてもよい。何故先生がこゝのふ事をやつたかといふと、こゝして皆が空で言へるやうになると綴方がとてもうまくなるの。六、と

此の中で私はこの書き方がとてもよいと思ふところはなにかね。よい所があるさ。あなた、○月夜の晩、×うんこれもよい。先生二重丸をつけたい所がある、○親山羊、×親山羊がゐなけりや困るね外に。○心持です×さうこれじや／＼（心持に○を）月夜の晩に箱の中に入れてどんな心持がしたでせう。といふことはどんな心持だか分らないといふ事ではない。さぞ一人でさびしかつたでせうといふこととです。こゝのふ事が綴方で書け出すといふのね。それではこちらがはで○をつけたい所、○生れた頃×うん生れた頃どんなだつた、○すつばすつばと吸

我が校ニ於ケル國民精神總動員運動ノ具體的計劃並ニ之ガ實施狀況

神奈川縣女子師範學校
神奈川縣立横濱第二高等女學校

第一項 國體ノ本義ヲ明徴ニシ以テ日本精神ノ宣揚ニ努ムルコト。
一、敬神崇祖 左ノ場合ニ於テ惟神寮（本校修養

道場）及伊勢山皇太神宮ニ參拜セシム。
1、毎月一日、十五日。數年前ヨリ實施セルモ此際特ニ強調ス。

2、國家的祝祭日。從來實施セリ、本月十七日ハ特ニ國民總動員強調週間ニツキ午前七時半全校生徒職員伊勢山皇太神宮ニ戰勝祈願祭ヲナシ必勝ノ信念養成ニツトム。
3、支那事變ニ際シ戰捷及ビ武運長久ノ祈願ヲナス。即チ二回實施ス。
4、其 他
イ、五月十五日伊勢山皇太神宮例祭ニ參拜。
ロ、入學及卒業當日當該學年參拜。
二、皇室尊崇

- 1、皇居遙拜。朝禮及び各種行事ニ際シ之ヲ行フ。
- 2、皇室ニ關スル御記事ノ揭示及び之ガ保存。從來ヨリ特別ノ揭示場ニ之ヲ掲ゲ、之ヲスクラフツクニ貼付保存シ、實地授業ニ利用ス。
- 3、皇室ニ關スル御事トモノ謹話。
 - イ、支那事變ニ際シ特ニ第七十二回帝國議會ニ賜ハリシ、御勅語謹話。
 - ロ、朝禮及實地授業ニ於テ努メテ之ガ謹話ヲナシ、皇室尊崇ノ念ヲ厚カラシム。
- 4、二重橋前ノ皇城遙拜。
 - イ、從來入學ト共ニ之ヲ行フ。
 - ロ、支那事變ニ際シ特ニ代表者上京遙拜。

三、日本精神宣揚

- 一、二ノ外次ノ事項ヲ實施ス。
- 1、御勅語、御詔書、奉讀式舉行。從來ヨリ教育勅語、戊申詔書、精神作興詔書、憲法發布ノ御勅語ヲ奉讀式ヲ舉グ且御聖旨ヲ謹話シ謹書ス。本年ノ戊申詔書下賜記念日ハ國民精神總動員強調週間ニツキ特ニ謹話謹書スルト共ニ十月十九日迄課外ノ勤務奉仕作業ヲナサシム。
- 2、日本精神講座ノ特設。此ハ數年前ヨリ實施ス。今事變ニ際シ更ニ強調ス。主トシテ古事記、日本精神歌ニツキテ。
- 3、明治天皇御製奉唱。昭和八年ヨリ長クモ 明治天皇ノ御製中ヨリ三十一首ヲ謹選シ玉ノみ聲ト名ケ、朝禮及第一時授業開始ノ際教師生徒之ヲ奉唱ス

4、國旗掲揚

毎朝之ヲ掲揚。一同敬禮ヲナス。

- 第二項 今事變ニ關シ帝國ノ使命ヲ自覺セシムルト共ニ特ニ時局ニ對シ正シキ認識理解ヲナサシム
- 一、帝國ノ使命自覺

- 1、事務局講座ヲ設ケ隔週一回之ヲ行フ、九月下旬第一回講座ニ於テ、長クモ第七十二回帝國議會開院式ニ下シ賜ヘル 御勅語奉讀及御聖旨ノ程ヲ謹話ス。
- 2、國際聯盟退ニ關スル詔書ノ謹解。
- 3、法令訓諭訓令、聲明ノ解説。

- 二、時局ノ認識理解
- 1、時局ニ關スル資料ノ蒐集調査。本校内ニ今次事變ニ際シ特ニ事件調査室ヲ設ケ次ノ分類ニ伴フ調査ヲナス。

- 支那事變ヲ中心トスル時局調査要項、
 - 1、詔勅、法令、訓諭、訓令聲明、2、事變ト皇室、3、陸軍ノ活躍、4、海軍ノ活躍、5、本縣出征並銑後赤誠美談、6、全日本銑後赤誠美談、7、銑後婦人(全日本)
- 國際關係 8、事變ト國際關係
- 經濟 9、事變ト國家經濟、10、事變ト産業防空 11、防空防毒防火、避難
- 其他 12 流言蜚語取締、13 軍事知識解説、14 支那民族性、15 非常時ト國民體育並ニ保健、16 軍歌流行歌、17 戰時關係手工藝、18 ニュース寫眞並畫報、19 時局研究文獻目錄、20 事變家事、21 號外綴、22 各新聞社説、23 雜之部、24 事變ト思想文學

- 2、時局講座(隔週一回)
 - イ、一般的事項ニツキテハ、全校生徒ニ對シ之

ヲ行フ。

- ロ、次ノ教科ニツキテハ擔任教師之ヲ行フ。修身、公民、國語、地理、歴史、理科、家事、音樂
- ハ、外來講師ノ招聘。

- 陸海軍ノ新聞班及び軍事普及部ヨリ。
- 第三項 和協心ヲ一ニシ舉國一致以テ銑後ノ後援ヲ強化持續スルコト。

- 一、和協一心ノ訓練。
 - 1、全校團體訓練日 毎日放課後全校職員生徒一同戸外ニテ運動ヲナス。特ニ金曜日ハマスゲーム。教練、小遠足ヲナス。
 - 2、防空演習ニ共同參加、規約編成ハ別ニ之ヲ定ム。
 - 3、毎日國旗掲揚ヲナシ敬禮後ラヂオ體操ヲナス。(本項昭和五年ヨリ實施)

- 二、舉國一致銑後ノ後援強化持續。
 - 七月七日支那事變勃發以來本校ニアリテハ左ノ施設ヲナス。
 - 1、應召派遣軍人ニ對シ次ノ方法ヲトレリ。
 - イ 七月二十三日千人針四百本及守袋百七十ヲ贈ル。
 - II 慰問狀ヲ贈ルコト二回。
 - III 私製繪葉書ヲ贈ルコト二回。
 - III 本校生徒關係者應召ノ際ハ職員生徒ノ代表之レヲ見送ル。
 - V 本校所在地ノ應召軍人ニ對シテ職員生徒代表見送ル。

- VI 古新聞古雜誌、空罐空瓶蒐集集拂下ゲ六十餘圓ヲ得テ之レヲ七月二十三日陸海軍兩省ニ

- 獻金ス。
- VII 生徒自身節約貯金セルモノ約百三十圓ヲ本縣教育會ヲ通ジ十月上旬應召軍人ノ慰安ニ獻金ス。

- 本校關係派遺應召軍人ノ氏名ヲ惟神寮ニ揭示シ祈願ヲナサシム。
- 2、傷病兵ニ對シ。
 - I 橫濱海軍病院慰問 十月九日職員生徒代表花束十圓及私製繪葉書八百枚ヲ持參慰問ス。(東京衛戍病院ハ十一月之ヲ行フ豫定)

- II 國民精神總動員強調週間中ノ課外奉仕作業週間ニテ毛糸ノ足袋ヲ作り之レヲ送ルコト
- III 校友會雜誌ノ臨時増刊號トシテ傷病兵慰問號ヲ刊行シ贈呈スルコト。
- III 野戰病院ニ慰問狀及ビ繪葉書ヲ送ルコト。
- V 慰問展覽會ヲ十一月二十一日ニ開キ之ヲ送ルコト(手藝品圖書、裁縫等ニテ作製シタルモノ)

- 3、遺家族ニ對シ
 - I 節約貯金、生徒ハ月十錢、教師ハ俸給ノ二百分ノ一ヲ齎出シテ、遺家族ノ慰問、應召軍人及傷病兵慰問資金ニ充ツ。
 - II 毛屑七十二貫餘ヲ集メ之ヲ賣却シ得タル資金百三十圓餘リ本校職員生徒關係遺家族ノ慰問ニ充ツ。

- III 慰問及慰問狀ヲ發送ス。
- III 本校行事ニ招待慰安ス。
- V 遺家族ノ裁縫洗濯ヲナサシム。
- 4、戦死者ニ對シ
 - I 戦死者ノ氏名ヲ惟神寮ニ掲ゲ慰靈祭ヲ舉行ス。

- II 横濱市内ノ戦死者家族ニ對シ五十錢ノ花束ヲ持チ職員生徒總動員ニテ吊問ヲナス。
- 市外ニアリテハ五十錢ノ線香ト吊問狀ヲ發送ス。

第四項 質實剛健ニシテ堅忍持久克ク困苦缺乏ニ堪ヘ得ル心身ノ鍛練ヲナスコト。

- 一、修訂生活
 - 約五日ニ亘リ惟神寮ニテ左ノ行事ヲ行フ。
 - I 修訂、II 正式拜禮、III 玉ノ御聲奉唱、III 旭日拜、V 父母及舊師親戚知人ニ對シテ感謝狀、VI 宣誓文奉讀、VII 寮ノ内外ノ清掃作業、VII 定座觀念、VIII 教育勅語奉讀。

- 二、各種行事ニ於テ第四項ノ精神ノ涵養ニ努ム。
 - 1、各種競技 特ニ必勝ノ信念養成ニツトム。
 - 2、體育大會 本年ハ時局柄、質實剛健ノプログラムニヨリ施行。且當日日ノ丸辨當ヲ獎勵ス。

- 3、強行遠足 陸海軍記念日、其他記念日ニ於テ行フ。
- 4、武道獎勵 弓道、薙刀ヲ特ニ此際強調ス。

- 三、農業園藝ノ獎勵 本校ニ實業科ヲ設置シ特ニ勤勞作業愛好ノ精神ヲ涵養スルコト共ニ身體ノ健康鍛練ニツトム

- 四、清掃作業ノ徹底の獎勵
- 五、學習事項ノ作業化、實際化 特ニ各教科ニテ教授セル事項ハ努メテ之ヲ實際化スルト共ニ作業化シテ勤勞作業ニ堪フル心身ノ訓練ヲナス。

- 1、窓掛ノ洗濯、修理、補充
- 2、障子ノ修理張換
- 3、掃除道具ノ製作手入
- 4、各科ノ圖表、標本模型ノ修理作製
- 5、机腰掛ノニス塗換
- 6、上級生ニ對シテハ特ニ父兄會體育大會等ノ來賓用食事ノ調製、校服、下着、運動服外套等ノ調製ヲナサシム。
- 六、課外作業週間ノ實施

次ノ場合ヲ作業週間トシ校友會社會奉仕部ノ活動トシテ毎年之ヲ實施ス。

- 1、第一學期六月十日時ノ記念日ヲ中心ニ一週間始業前ニ約四十分間之ヲ行フ。
- 2、第二學期戊申詔書下賜記念日中心ニ一週間放課後一時間之ヲ行フ。
- 3、第三學期、入學試験ノ際教具ノ作製ヲナサシム。

- 七、特ニ困苦缺乏ニ堪ヘ得ル心身ノ涵養ノタメ左ノ施設ヲナス。
 - 1、娛樂趣味ニ流レ易キ諸會同ノ見合せ。
 - 2、各種行事ニ於テ成ルベク節約ナシ以テ勤儉力行ノ習慣養成ニツトム。
 - 3、特ニ左ノ場合ハ日ノ丸辨當ヲ獎勵ス。
 - I 事變發生記念日即チ毎月七日
 - II 二宮先生報德記念日

- III 體育大會當日 非常時經濟ヘノ協力ヲナシ、資源愛護ノ精神ヲ涵養ヲツトムルコト。

- 一、勤勞作業奉仕 校友會社會奉仕部ニ於テ左ノ事業ヲナス。
 - 1、農園花壇ノ手入
 - 2、校舍校具ノ修理作製(前出)
 - 3、來賓用菓子食事ノ調製
 - 4、生徒校服外套運動着ノ製作

- 二、物品尊重消費節約
 - 1、國防上特ニ重要ナル物品ノ尊重消費節約ヲナスコト。
 - ゴム、皮革、棉花、羊毛、紙、木材、電力等
 - 2、國防上特ニ重要ナル廢物蒐集利用
 - I 鐵屑(古鍋釜、古車輪、鑄物屑、其他鐵類)
 - II 銅屑(電球口金、藥莢廢品、金ボタン屑、



男 繁 宅 三 男 四 校 學 小 磯 大



子 康 畑 田 女 二 校 學 小 磯 大

野煙春光
山霞晩色

高ニナ 田中ミナ

横須市六浦小学校

高ニナ 田中ミナ

三途遺
訓遊宣

女子師範學校 五年 前川とし

法師俗
娃孟氏

師二一末木美代

女子師範學校 二ノ一 末木美代



児童生徒作品欄

大工さん

三浦長井校尋四 岸

孝 一

朝から学校の昇降口で大工さんがカンナの音や金づちの音を立て、働いてゐます。

もう一学期の時から始めて四ヶ月目になる今は盛んに下駄箱を作つてゐる。やがて僕達の下駄箱も新しくなるだらうと喜んでゐるのです。

一番始めの頃は教室のまはりの板から始めて屋根も、壁も皆んな新しくなつて来ました。つい此の間は学校のまはりの板が新しくなつて、それに色をつけてゐましたが、先生に聞くとぼろふさいといふ薬ださうで、そのにほひがそのじぶんには学校中にほつてゐて、なんともいへぬ心持がしました。

けれども朝早くから仕事を始めて一生懸命に働いてゐる大工さんを見てゐると何んだかありがたいうちに思はれます。こうして働いてゐる大工さんは学校をだん／＼新しくして下さるのです。釘を打つ音や木をたたく音がやかましく聞えて来ますが、これも皆んな僕達のしあはせになるものなのです。

ゆ め

横須賀・鶴久保校・尋五 松 本 節 子

がたん／＼とからだがゆれる。私は今自動車につて皆とお話して、とてもおもしろい。上野動物園についた。さるが「キヤツキヤツ」とないてとんだりはねたりしてさわいである。白へびはくね／＼長いからだをくねらしてゐる。私はあんまりおもしろいのではねたくなつた。その外・鶴・熊・きつね・ぞうなどがゐる。おいしいのり巻をそこで食べた。とてもおいしく

構成教育断片 [2]

神奈川縣師範學校訓導

中 村

亨

色に生きてゐる。色彩感情を色彩の性格として考察しても、とび出す色

元氣な色 朗らかな色 暖い色 明るい色 さつぱりした色 やさしい色 めがさめる色 上品な色 浮ぶ色 新しい色

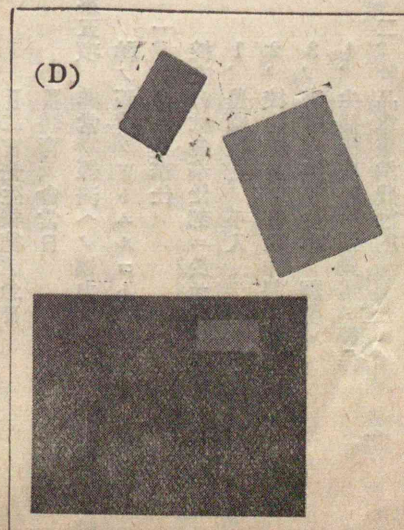
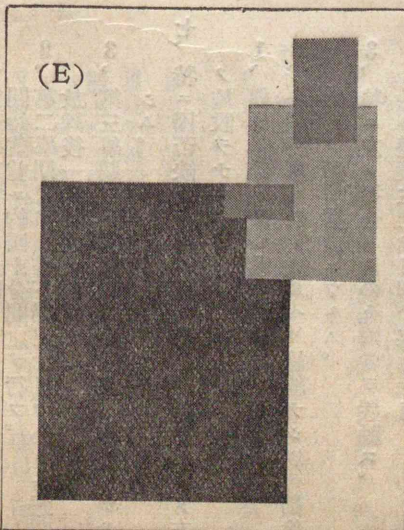
引込む色 おしなしい色 憂鬱な色 寒い色 暗い色 しつこい色 こはいい色 ねむい色 どく／＼しい色 沈む色 古めかしい色

と我々の感覚を動かす。

六色(緑・青・紫・赤・橙・黄)を同大の圓に切り、上圖(A)の如くならべてゐる。右は下へ、左は上へ動いて行く。位置を變へて(B)の如く配置する。今度は運動の方向が變化して廻轉をはじめる。次に一つ一つの圓の大きさを大中小(面積に變化を與へる)と變へて(C)の如く並べてみる。運動は速やかになり、廻轉は強くなる。

以上の如く同じものでも位置を變へ面積を變へるとこれより受ける感覚は異つて来る。

黒・青・赤・黄の色紙(面積の異つた)を(D)の



かく如の明暗、色の位置、色の面積と進めば思はざる驚異が現出し、歡喜が見出される。

如く配置し、又(E)の如く配置してみる。同じものであるが配置により全く異つた感覚を與へる。(D)は動きこそあるが平面的に感じ、(E)の方になると積重つて立體的に感じ何か建築物でも見てゐるやうな感じがする。

古金網等) III 鉛屑(煙草・銀紙、包装用錫紙等) IV 鉛屑(トタン・板屑、ブリキ、鋸、針金釘等) V 錫屑(錫器廢品、齒磨チユーブ菓子包装錫箔等) VI アルミニウム屑(古辨當箱、古湯沸シ等) VII 古護謄(古ゴム靴、古ゴム輪類)

第一回七月二十日 紙屑、新聞、古雜誌蒐集 三十五圓ヲ得タリ。

第二回十月上旬 羊毛屑蒐集七十二圓ヲ得タリ

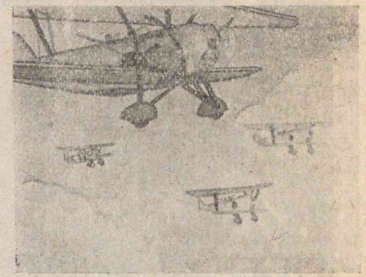
第三回十一月中旬 金物類蒐集ノ豫定。

3、廢物利用展覽會及パンフレット配布 九月下旬休暇中生徒ノ製作ニ係ル者ノ陳列ヲナシ且生徒工夫ノ廢物利用パンフレット發行

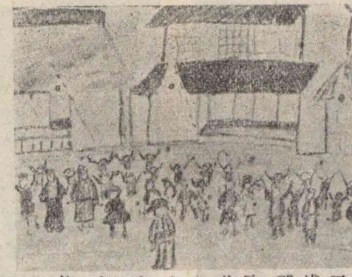
4、物品尊重消費節約ノ勵行 別紙配布ヲナシ目下勵行中ナリ。

5、國產品ノ調査研究ヲナシ、之ヲ生徒ノ家庭ニ配布スル豫定ナリ。

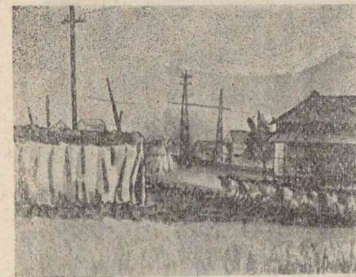
6、報國貯金 生徒ハ月十錢(消費節約ヨリ得タルモノ)教師ハ俸給ノ二百分ノ一釐出主トシテ銃後ノ後援ニ充ツ。



藤吉田山男五・保久鶴・賀須横



子節本秋女二・井長・郡浦三



向綱小男六・木厚・郡甲愛

小田原第二小學校
二女 瀬戸久代

ぬど水
手をけ
尋二瀬戸久代

小田原第二小學校
四男 井上善介

いも掘
大根引
尋四 井上善介

小田原第二小學校
五男 西山貞

栗拾ひ
たけ狩
尋五 西山貞

と、ほつべたがとれさうになつた。皆と、おもしろいお話をしながら、動物を順々に見ていつた。私は又皆とおさるさんの所へ行つた。そしていろいろ物をやつて、もう少しで手をかぢられさうになつたので、皆が「あゝおもしろい」とはやす。私は一度おどろいたが、おかしくなつたので、皆と一つしよに「わは、わは」と笑つたと思つた時にふと目がさめた。今のはゆめだつた。私は今ねどこでねてゐるのた。私のまはりには、なんにもない、たゞくすりびんだけで、皆もゐないし、さるもゐない。私は、とてもさびしくなつた。その時、時計が「ぼん」と一時を打つた。今皆は、どこを、見物してゐるのでせう。それを考へると、私は、もう一度、ゆめの中に入りたい氣がした。

名譽ある凱旋を待つ

愛甲郡・厚木校・尋六 齋 藤 正 夫

我が忠勇なる兵隊さんは蘆溝橋事件勃發以來四箇月。或は北支或は上海に連日連夜困苦缺乏にたえ、文字通りの惡戰苦闘をして居られるのであります。又各地の出征軍人は盡忠報告をまつたうする絶好の機會として其の使命を双肩になひ一身を捧げて困苦にたえ、皇國の國威宣揚と東洋平和確立の爲奮戰苦闘して、拔群の手柄を立て、居らるゝのであります。私達銃後の國民は兵隊さん達がかく／＼たる武勳を立て、凱旋なされる事を首を長くして待つて居るのであります。又銃後の國民は各部隊の軍旗にいよ／＼名譽ある光輝と武勳とをになつて凱旋されることをひたすら神に祈つて居ます。私達はこの名譽ある國に生れたことを深く喜びます／＼銃後の護りを固く一生懸命に勉強してゆかうでは有りませんか。

へいたいごっこ

足柄上・中村校・尋二 加 藤 正

ぼくと、にいちゃん、せんそうごっこをした、一人一人にわかれた。草の下にかくれてゐた。

女子師範附屬小學校
五男 渡邊保男

明治節
菊日和
五年男 渡邊保男

女子師範附屬小學校
五男 藤田穰一

明治節
菊日和
五年男 藤田穰一

津久井郡中野小學校
三男 大塚謙次

町村家
國男女
尋三 大塚謙次

津久井郡中野小學校
五男 田野村和男

明治節
菊日和
尋五 田野村和男

三浦郡三崎小學校
五女 福本喜美江

飛行機
航空路
尋五 福本喜美江

三浦郡三崎小學校
六女 島井芳子

諸國首
府都會
尋六 島井芳子

あ、なんだこいつは、おれだ、うつぞ、といつてうつた。ぼくは、ころりとねました。

雨 上 り

足柄上・中村校・尋二 相 原 ナ ツ 子

雨がやんで雲が東にとんでゐる日なすをもぎにいつたうるしのやうに光るなすもごとしたたらきゆつとなつたよ。

くさむしり

足柄上・中村校・尋五 相 原 昭 子

くさむしりに行つた。風が顔をなでた、豆がゆら／＼ゆれて行く、二人で顔をみはつた。お京ちゃんのおくれげが、ばつとちつた。

し ど め

足柄上・中村校・尋六 相 原 靜 江

山道を通つてゐるとままでの下のところに二つならんでゐたしどめのみ人に見つけられないやうにそつとかくれてゐるしどめのみもがうとしたら急にすつばくなつたしどめのみもがすに。

第三十三回關東聯合教育會本縣代議員

去る十月七日より三日間千葉市に於て開催せられたる第三十三回關東聯合教育會に本縣よりは左記三十四名の諸氏代議員として出席された。

- | | |
|--------------|-------|
| 神奈川高等女學校校長 | 佐藤善治郎 |
| 横濱市大岡小學校校長 | 高田文哉 |
| 川崎市御幸小學校校長 | 石川八代次 |
| 足柄下郡酒匂小學校校長 | 伊谷生三 |
| 横濱市蘆花小學校校長 | 和田佐助 |
| 同 共進小學校校長 | 古平敬爾 |
| 富士見丘高等女學校校長 | 澁谷近藏 |
| 横濱市立野小學校校長 | 杉崎精治 |
| 横須賀市立實業學校校長 | 佐久間房吉 |
| 川崎市富士見小學校校長 | 大矢助次郎 |
| 同 渡田小學校校長 | 永井衆助 |
| 平塚市平塚高等小學校訓導 | 竹内俊雄 |
| 同 平塚第一小學校訓導 | 飯塚龜之助 |
| 都筑郡中山小學校校長 | 森孝太郎 |
| 同 義胤小學校校長 | 角井元次郎 |
| 橋樹郡向丘小學校校長 | 白井隆資 |
| 橋樹郡宮前村長 | 碓井正平 |
| 三浦郡葉山小學校校長 | 持田孝三 |
| 同 長井小學校校長 | 山崎佐 |
| 鎌倉郡深澤小學校校長 | 小池文一 |
| 同 本郷小學校校長 | 青木由太郎 |
| | 杉山清茂 |

- | | |
|---------------|---------|
| 高座郡茅ヶ崎第一小學校校長 | 守屋貫雅 |
| 同 旭小學校校長 | 神藤重壽 |
| 中野東野小學校校長 | 草山忠八 |
| 同 大野第一小學校校長 | 能條道之助 |
| 足柄上郡川村小學校校長 | 井上鎮男 |
| 同 岡本小學校校長 | 久保寺 豊三郎 |

- | | |
|-------------|------|
| 足柄下郡足柄小學校校長 | 森丑太郎 |
| 同 上府中村長 | 秦理三郎 |
| 愛甲郡半原小學校校長 | 大矢良 |
| 同 宮ヶ瀬小學校校長 | 三橋淳 |
| 津久井郡中野小學校校長 | 辻村君造 |
| 同 佐野川小學校校長 | 加藤銀造 |

第三十三回關東聯合教育會概況

威 佐 武

十月七日より九日まで三日間、千葉縣主催で第三十三回關東聯合教育會が千葉市で開かれた、一府八縣より出席せる代議員三百七十二名。第一日は午前九時二十分開會、總員起立の上明治神宮を遙拜し、國歌の合唱、勅語奉讀等極めて厳肅、多久會長の式辭亦普吐朗々として場を歴し開會勢頭既に本會議の成功裡に終始すべきを思はせた。文部大臣、帝國教育會長、千葉醫科大學長、千葉市長其他數氏の祝辭ありて式を閉じ、次で多久會長(千葉縣知事)議長席に着き、午前十時五十分本會議に移る、千葉縣より緊急動議として、宣言並に出動將士及從軍記者への感謝電報發送方に關する議の提出あり満場異議なく賛成直ちに委員附託となる。

宣言 我が帝國ハ肇國茲ニ三千年天皇建國ノ大理想ハ年ト共ニ愈々顯現セラレ國運ノ興隆眞ニ躍如タルモノアリ、今次支那事變勃發以來我ガ忠勇ナル皇軍ノ精銳ハ善戰力闘以テ克ク敵ノ死命ヲ制シ銃後ノ國民亦舉國一體目的ノ達成ニ奉公ノ誠ヲ輸シツ、アリ、畏クモ 天皇陛下第七十二回帝國議會

開院式ニ親臨アラセラレ優渥ナル勅語ヲ賜ヒ國民ノ嚮フベキ所ヲ明示シ給フ 聖慮深遠洵ニ恐懼感激ニ禁ヘザル所ナリ、我等須ラク皇軍出動ノ眞義ト時局ノ重大性トヲ確認シ國民精神總動員ノ趣旨ヲ體シ堅忍持久確乎不拔ノ志操ヲ堅持シ和衷協同教育報國ノ大道ニ邁進スルト共ニ率先銃後國民ノ本分ヲ完ウシ出征將士ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ以テ聖慮ノ萬一ニ應ヘ奉ラムコトヲ期ス。

出征將兵ヘノ感謝電文 今次事變勃發以來忠勇ナル帝國陸海軍ハ能ク萬難ヲ排シテ暴支膺懲ノ軍ヲ進メ善戰力闘克ク其ノ死命ヲ制シ帝國ノ威武ヲ中外ニ顯揚シ以テ皇道ヲ四海ニ宣揚セラル其ノ勞苦察スルニ餘アリ今回一府八縣第三十三回關東聯合教育會ヲ千葉市ニ開催スルニ際シ滿場一致ノ決議ニ依リ滿腔ノ赤誠ヲ披瀝シ茲ニ感謝ノ意ヲ表シ併セテ武運ノ長久ヲ祈ル

從軍記者ヘノ感謝電文 從軍記者各位ガ勇猛果敢天職ニ殉ズルノ覺悟ヲ以テ其ノ任ヲ完フセラル、勞苦ニ對シ、第三十三回關東聯合教育會ハ滿場一致

ノ決議ニヨリ深甚ノ謝意ヲ表ス。

次で文部省諮問案「時局ニ鑑ミ教育上特ニ留意すべき事項如何」その他左の五議案につき提出者の説明質疑應答意見の發表等あり何れも委員附託となる。

一、兒童生徒ノ校外生活ヲ指導スベキ適切ナル案如何(帝都教育會提出)

二、教育ヲ一層國家ノ狀態ニ順應セシムル爲ニ執ルベキ方案如何(同前)

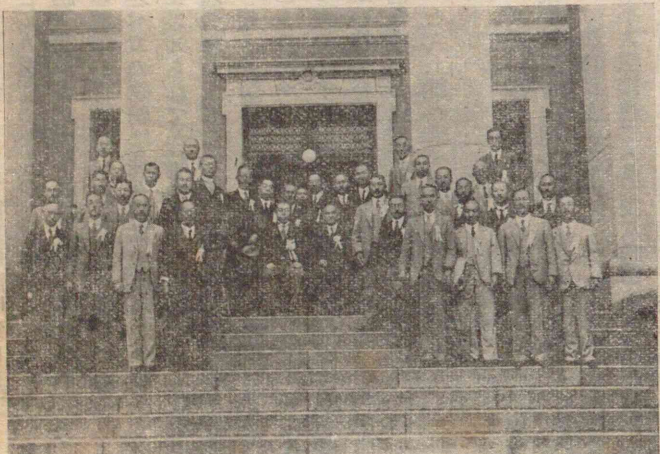
三、移民思想涵養ノ具體的方策如何(埼玉縣提出)

四、公德心涵養ノ要目ヲ如何ニ定ムベキカ(同前)

五、現時ノ情勢ニ鑑ミ義務教育年限延長並師範教育制度改善ノ實現ニ對シ本會ノ採ルベキ態度如何(同前)

斯くして午後二時半本日の日程を終り午後三時よりは殊に主催縣の輪旋により千葉步兵學校を見學することが出来たのは時節柄頗る有意義であつた。擲彈筒、戰車、化學戰、輕機關銃、重機關銃、軍犬、歩兵砲等の實演に出征第一線の皇軍將士の活躍を勞勩たらしめ見學者をして何れも軍事當局の並々ならぬ勞苦を偲ばしめ一層その感激を深からしむると共に最新式の兵器に對しては絶大なる信頼と心強さを感ぜしめられたのである。かくて秋の夕日の富士の彼方に沈む頃此所を辭して宿舍牧野屋旅館に泊る。明くれば八日本會議第二日である。午前九時半開會豫定の通り教育功勞者の表彰式が行はれた、本縣の實業教育の大功勞者として美澤進氏と併び稱せられて居る元縣立工業學校校長、現に横濱市教育會副會長の職に居らる、秋山氏が表彰の光榮に浴せられたのは御同慶のいたりである。

表彰文 從四位勳四等秋山岩吉君、君資性謹嚴ニシテ敦厚、醇正其身ヲ持シ實業教育ノ振興ニ盡瘁ス



ル事多年、明治四十五年神奈川縣立工業學校ニ職ヲ奉ジラレテヨリ既ニ二十有五年内克ク實實剛健ノ校風作興ニ努メ外ハ卒業生ノ誘掖指導ニ力ヲ致シ東奔西走席ノ溫ル時ナシ、君ガ薰陶ニ浴セル者悉ク堅實有爲ノ技術者トシテ現ニ京濱間ノ工場ニ活躍セル者ヲ以テ數フベク彼等ガ我國工業界ニ貢獻セル其功績定ニ甚大ナリト謂フベシ、是ニ以テ君ガ教化ノ賜トス、本年三月數多ノ門弟ト全縣民愛惜ノ裡ニ其ノ職ヲ退ケリ。君育英ニ志シテヨリ茲ニ四十年、其ノ間各種教育團體ノ役員ヲ兼ネ其ノ黨化ノ功ハ普ク縣下ニ及ブ、現ニ横濱市教育會副會長ノ要職ニ在リテ終始一貫教育事業ニ盡瘁ス眞ニ教育者ノ範範トス、今ヤ本會第卅三回ノ

開催ニ際シ滿場一致ノ決議ニ依リ茲ニ之ヲ表彰ス滿場拍手感激の中に秋山氏外八氏の表彰を了り一先づ休憩、この休憩時間を利用して、森丑太郎、守屋貫雅、石川八代次、古平敬爾の四氏と私は本縣代議員を代表して縣廳に多久長官を訪問し敬意を表した。多久知事は嘗て本縣學務部長として御在任當時お世話になつた思出の多い方である。長官は溫顔に笑をたへて吾々五人を快く引見されて、當時の思出話にそれからそれへと花が咲き、つい長時間御邪魔して恐縮した。尙其上に記念撮影まで御願したところこれをも御快諾、午後零時四十分折から土砂降りの雨をも意に介せず縣廳表玄関で長官と秋山氏を中心に代議員三十四名打ち揃つて記念の撮影をすることが出来たのはこの上ない喜びであつた。

これより先議場では表彰式終了後次の三議案が上程された。

一、速カニ教育立國ノ國策ヲ樹立セムコトヲ其ノ筋ニ建議スルノ件(山梨縣提出)

二、學校教職員ノ健康保持並ニ増進ニ關シ適當ナル方策ヲ調査シ其ノ實現方ヲ其ノ筋ニ建議スルノ件(都筑郡提出)

三、教員保養所經營上最モ適切ナル方策如何(千葉縣提出)

前記第二號議案は都筑郡教育會提出のもので提案理由の説明は都筑郡中山尋常高等小學校校長角井元次郎氏が其の任に當られたのである、君は斯うした場面は初陣と見えて幾分は緊張し過ぎた様でもあつたが直裁簡明な説明に却つて喝采を博し滿場一致委員附託となつたのは大出来であつた。而かもその委員長には堂々たる貫録を示して大岡小學校校長高田文哉氏が當られたのである、茲に其の調査報告書を掲げ

て参考とする。

國民體位ノ増進ハ現内閣ノ夙ニ國策大綱トシテ中外ニ聲明セシ處ナリ、今や我が國未曾有ノ時局ニ遭遇スト雖モ政府克ク國民保健省ノ新設ヲ期シ銳意之レガ實施ニ邁進セントセラル、邦家ノ爲メ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ、而シテ學校教職員ノ健康状態ヲ觀ルニ遺憾ノ點尠シトセズ國家將來ノ爲誠ニ憂慮ニ堪ヘザルナリ、仍テ之レガ適當ナル方策トシテ左記事項ヲ速ニ實現セラレンコトヲ望ム

- 一、教職員ノ爲權威アル體育運動指導機關ヲ擴充セラレタキコト
- 二、教員保養所ノ施設ヲ速ニ完備セラレタキコト
- 三、教職員ノ健康保健法ヲ制定シ速ニ實現セラレタキコト
- 四、教職員ノ養成並ニ任用ニ關シテハ健康診斷ヲ一層重視セラレタキコト
- 五、教職員ノ健康診斷ヲ定期ニ勵行シ疾病ノ早期發見ニ努メラレタキコト
- 六、病氣休職者ニ對スル休職給付増額支給シ療養ニ専念セシメラレタキコト
- 七、一學級ノ兒童數ヲ減少シ事務員ヲ設置スル等專ラ教職員ノ負擔輕減ヲ圖ラレタキコト

次で栃木茨城山梨長野等の提出議案は悉く即決可決された最後は本縣提出の「小學校ニ武道ヲ課スルノ途ヲ開カレムコトヲ其ノ筋ニ建議スルノ件」である。時計は既に正午に近し、議場は漸くだれ氣味となる「簡單に願ひます」「説明省略」等の聲所々に起る、此の時説明の暇を承つたのは押しも押されぬ海千山千の古強者大岡小學校校長高田文義氏その人である……「議長三百番……」底力ある聲は議場を引きしめる悠々迫らず堂々たる。體軀を壇上に運ぶ。

「御希望に依りまして簡単に説明致します……」まことに人を喰つたものだ、やをら口から漏るゝ一語一語、我が國武道の眞髓を説き去り説き來つて諄々この武道が青少年の心身鍛錬に絶大の効果あることを述べての説明は却々簡單ではなかつたがその眞剣さで魅せられてか議場も自然と緊張して各所に拍手が起つた。斯くして説明終るや一代議員より質問の矢一矢……「具體案お持ち合せあらば詳細承りたし……」今こゝで長々と具體案の持合せを説明されては議場はうだる……機を見るに敏なる高田氏は即座に「具體案の持ち合せは充分あるが此の場での説明は却つて他の方へ御迷惑とも考へますから後刻にいたします」と大上段の構へに……議場「ヒヤ……」即決可決で本日日程全部終了した。午後一時よりは千葉第一尋常小學校で委員會が開かれた、委員會散會後千葉縣教育會主催の第五回展覽會を思ひ……に參觀した。降雨は益々募る。

水不入懇談會 この夜八時から宿舍牧野屋旅館の二階大廣間で本縣代議員だけで全く水いらすの懇談會を開いた。幹事の幹旋で卓上には簡素な御馳走が並べてある。開會前から既になごやかだ、佐藤先生が生れ故郷の千葉へ歸つての「今浦島物語」澁谷先生の三十年前の「修學旅行汽車賃値切交渉の一節」青木君の「時局に鑑み牛の子孕み鑑別方講演」果ては佐久間君のバスの女車掌よろしくの「千葉名所案内」大矢君の即席和歌の御披露に愉々快々時の過ぐるを知らなかつたが、明日もあるので惜しくも散會したのは十一時近くでもあつたらう、更け行く千葉の雨の夜は至つて静寂である。

明くれば最終日例に依つて委員附託の諸案件は何れも一瀉千里で委員長報告通り可決確定となつた。

惟ふに今回の會議は時局の反映もあつたらうか極めて嚴肅であつた。只閉會間際になつてから、帝都教育會の中澤氏から何やら緊急動議の提出があつて一寸議場騒然となつたが裁決の結果は、賛成者も少數不賛成者も少數で議長稍々當惑の態であつたが、それは流石は議場馴れた中野常任委員長の氣轉で……本案は廢案として載きます……で覺がついた。午前十一時多久會長の鄭重なる閉會の辭によつて意義深き第三十三回の關東聯合教育會の幕は閉ぢられたのである。

地方觀察 昨日の雨に引き替へて今日は限なき日本晴、閉會後總員は二派に別れて地方觀察に出かけた、第一班は銚子方面、第二班は房州方面である、何れも千葉縣教育會が極めて用意周到なる計畫の下に進められた上に至れり盡せりの款待には視察員痛く感激したのである。本縣の視察員は殆んど銚子方面のみであつたが、久保寺、井上の兩氏と私は房州方面の觀察に加はつた、まづ木更津に海軍航空隊の精銳を見學、午後三時半〇〇方面より凱旋の爆撃機三臺を汽車中にて歡迎し、日暮るゝ頭館山に着き一行九十名は木村屋旅館に泊る、翌十日前七時省營バス四臺に分乘し房州南端を廻り官幣大社安房神社に參拜し國威宣揚武運長久を祈願し、外房州の風光を賞しつゝ、午前十一時小湊誕生寺に傑僧日蓮上人の古蹟を偲ぶ、この誕生寺の木の香床しい貴賓殿に於て圖らずも神奈川縣と由縁深き

明治天皇の御尊影を拜す 寺僧の案内につれて一行は貴賓殿に進む、檜造りの宏莊なる廣間の前に一同端座し説明を聞く……「長くもこの御尊影は御寶算二十二歳の御時神奈川縣橫濱瓦斯局に臨幸あらせ給ひ本邦瓦斯事業嚆矢者であつて特に長くも高島

嘉右衛門氏に拜謁を仰せ付けられました……寺僧は涙ぐみつゝ、明治天皇の御聖徳と高島翁の孝心につき説明をなし終るや、襖が左右に音もなく開くとその奥に衣冠御束帶の凛々しい御尊影が拜せられた。一同平伏最敬禮を捧げ感激しつゝ退席した。縣教育會では恰も明治天皇聖蹟調査中である折柄かゝる所で神奈川縣と重大關係のある、御尊影を拜することを得たのは何かの御縁とも思はれたので私は寺僧に請ふて誕生寺所藏の記録と御尊影との御寫とを譲り受けたのである。左に謹載する。



明治天皇御尊影
御寶算御二十二歳容額面五尺五寸
幅四尺

感 狀 ノ 寫

(東京市長ヨリ高島家へ)
拜啓這般本市寶算五十年祝賀會舉行ニ際シ
明治天皇御尊像特ニ御提出ヲ添フシ
天覽 台覽ニ奉供コトヲ得候段深ク感謝仕リ候當日
陳列ノ模様爲記念攝影寫眞帖ヲ調製候ニ付別冊目錄
相添ヘ贈呈致度

右御挨拶旁如斯ニ御座候 敬具
大正八年五月

東京市長法學博士
田 尻 稻 次 郎

明治天皇御尊影奉納の由來

明治七年三月十九日
明治天皇 橫濱瓦斯局に
御臨幸あらせられ給ひての折高島嘉右衛門翁の孝心に御感あらせられ長くも御尊影の謹寫を許し給はれ五木田藩伯謹寫高島家寶として保存せられし處當誕生寺主今井日誘親下御尊影奉納の御懇望あふしが高島家門外不出の寶物たるを以て馬堀藩伯に御尊影の復寫を依頼その謹寫の完成せし御尊像を茲に當誕生寺貴賓室新築記念落成記念として奉納仕り度御受納の榮を得且つ以て貴主今井日誘親下の御懇望に添ふを得ば不肖無上の光榮とする所なり 當時嘉右衛門翁が拜謁仰せ付けられし模様を記載し御尊影の由來を明かにするは最も意義深き事と信じ左に吞象高島嘉右衛門翁傳中の一章を併記す

昭和六年

橫濱市神奈川區臺町五十九番地
高島家支配人 餅田喜之助

(高島翁傳記中抜萃) 今日社會に於ては電燈瓦斯の光は必ずしも珍しきものに非ず顧みて明治四年翁が始めて横濱に瓦斯事業を起し同五年該事業成就して其始めて燈火を點じたる際を見れば日本帝國には未だ嘗て一の瓦斯燈なるものあることなかりしなり、恰も京濱間の鐵道始めて敷設せられ明治天皇は其の開通式に行幸あらせ給ひたりしが

越えて同七年三月十九日長くも翁の經營に成れる夫の横濱瓦斯局に臨幸あらせ給ひ本邦瓦斯事業の嚆矢者であつて殊に長くも拜謁を仰せ付けられたり茲に翁は此殊榮に浴するの際恐懼謹慎御前に出でんとせる利那當時の侍從長東久世伯は急遽翁を呼び止めたりスハ何事ぞ起りしかと怪しみて顧みれば伯は翁の背を指示しそは何を入れたるやを問ふ怪しめられたるも道理にこそ其時翁の背は奇異の形に膨れ居たりし也、他の人にも茲に漸く心付きて御前に出づるに此は何事ぞと怪しみたるも左に怪しみ給ふこと勿れ、今日の光榮身に餘りて辱なく之を一人にて受くるに忍びず逝ける父母にもこの光榮を分けたく思ひて是れ斯の如くなりと言ひつゝ取り出すを見れば是なん翁が父母の本主にてありけり、伯も他の人々も之を見て扱ては去る至孝の心にありけるかと感激之を久しうしたりとぞ、されば翁は此の一代の光榮たる拜謁に際して父母と共に三人にて其榮に浴せる事なり、古來翁の如き拜謁も亦其類例を見ず翁獨り之をなせると言ふべく殊榮愈々殊榮を極めたりと謂ふべし斯くて翁は優渥なる御沙汰を被りて御前を退かれ其日の榮事は目出度く終りを告げたるが惟ふに翁の此の光榮ある所以のもの、明治天皇の一視同仁四民平等の恩澤を垂れさせ給へるに因ると雖も抑も翁が天分修養と共に大に勝れるものがあるが故にもまた因る所なくんばあらざるなり云々。

斯くして正午近く誕生寺を辭し妙々浦に舟を遣り明神岩の附近に集まる鯛の群棲する状況を漁師の説明に耳を傾け次で對岸の水産講習所所屬の水族館の見學をも終り全部の豫定も滞りなくすませたので接待員の方に厚く辭を述べ別れを告げたのは午後三時半頃であつた。(二二・一〇・二〇・誌)

教員共済會だより

診療手当支給調
(十月中支給)

大正十二年九月一日	横溝イシ
中郡相川小學校尋常六年	
大正十二年九月一日	山口圭介
いづれも大震災のため殉難	
(以上昭和十一年十月三十日配祀)	
中郡平塚町立實業補習學校生徒	
大正十二年九月一日	渡邊千代
中郡平塚小學校高等二年	
大正十二年九月一日	鷺見田鶴子
同 高等二年	
大正十二年九月一日	鈴木ミツ
同 尋常六年	
大正十二年九月一日	齋藤義雄
いづれも大震災のため殉難	
(以上昭和十二年十月三十日配祀)	
診療手當支給調 (十月中支給)	
金額	氏名
金 郡市 學校	
九、〇〇 鎌倉 小坂	三橋ミヨ
一五、五〇 鎌倉 村岡	寺内時二
四、五〇 三浦 逗子	井澤 豊
三三、五〇 足柄下 國府津	長澤正之
五、〇〇 縣廳 學務課	川島泰祐
八、〇〇 中 大磯	島津金藏
五、〇〇 都筑 義胤	市川銑之助
九、〇〇 横濱 峯	小柳喜代藏
二五、五〇 川崎 大師	海老塚利夫
二九、五〇 川崎 大島	鬼頭 敦
四、〇〇 足柄上 山北青年	杉本隆英

金額	郡市	學校	氏名
九、五〇	中 都 筑	南秦野	平田ト菊
三、五〇	横 濱	田 奈	小林 菊
三〇、〇〇	横 濱	岩 崎	宿崎能夫子
七、五〇	横 濱	岩 崎	府川勝藏
四、〇〇	高 座	綾 瀬	大谷藤枝
七、〇〇	中	旭	露木政子
七、〇〇	鎌 倉	師 範	三留長太郎
二〇、〇〇	足柄下	小田原第二	金子俊男
一〇、〇〇	横 濱	濱 町	寺澤正夫
二、五〇	横 須 賀	田 浦	石川新吉
一五、〇〇	鎌 倉	村 岡	寺田時二
一五、〇〇	横 濱	一本松	道見直江
一五、〇〇	横 濱	一本松	三ノ宮 整
一〇、五〇	津久井	中 野	山本英夫
一三、〇〇	鎌 倉	玉 繩	八代勘六
七、五〇	足柄上	福 澤	瀬戸健兒
一四、〇〇	高 座	六 會	中津川チヨ
一〇、〇〇	足柄下	酒 匂	石井正直
二一、〇〇	愛 甲	厚木高女	高梨貞義
一五、〇〇	中	相 川	近藤正男
三五、〇〇	津久井	串川第一	木藤保信
二五、〇〇	高 座	藤澤第二	和田貞吉
一〇、〇〇	都 筑	新 田	小川敏一
計	四二四、〇〇		
累計	二、八七二、五〇		

計	四〇、〇〇〇
累計	一、三〇〇、〇〇〇
家族弔慰金支給調（十月中支給）	
金額	郡市學校氏名
一〇、〇〇〇	川崎日吉水野トキ長男學
一〇、〇〇〇	鎌倉戸塚牛尾重郎實父重次
一〇、〇〇〇	足柄下眞鶴和田東平實父仁之助
一〇、〇〇〇	足柄上川村古瀬耕三實父歌之助
一〇、〇〇〇	中二宮二見八郎養母リン
一〇、〇〇〇	足柄下小田原第三和田公養父仁之助
一〇、〇〇〇	都筑新田松川文太實母こと
一〇、〇〇〇	横濱磯子佐野孝三女月子
一〇、〇〇〇	中二宮宮代芳男養父新太郎
一〇、〇〇〇	中二宮宮代芳妻アキ
一〇、〇〇〇	足柄上福澤露木音吉養母テウ
一〇、〇〇〇	愛甲厚木高女大村ヨシエ夫信夫
一〇、〇〇〇	川崎大師田中カツヨ養父波一
計	一三〇、〇〇〇
累計	九八〇、〇〇〇
資産（昭和十二、十、卅一現在）	
金五萬八千五百圓	農工債券
金六千三百九十一圓	農工株券
金二千圓	定期預金
金千二百十八圓十六錢	特別當座預金
金八百八十九圓九十五錢	當座預金
金五千九百六十二圓六十四錢	振替貯金
金三萬九百七十二圓四十四錢	貸付金
金二萬四千五百十圓六十二錢	國債
金九萬八千圓	信託預金
金十圓	振替貯金基本預金
計二十二萬八千四百五十四圓八十一錢	

「第二回教育祭」

大阪市教育塔前に於て

十月三十日大阪市教育塔前に於て第二回教育祭が舉行された。午前十時開式、雨雲低く垂れて今にも降りさうである。塔前大天幕の下には全國より集まり來れる教育關係者、遺族等約二千靜肅に時の至るを待つ。聽て合圖の振鈴と共に永田會長、新文部大臣木戸侯爵、大阪府知事、大阪市長、其他多數の來賓着席、定刻十時を過ぐる十五分開式豫定通り式は進み十二時滯りなく終る、この時猛雨沛然と降り教育塔を洗ひ清めた。本縣よりは、小田原第二小學校長佐藤喜作氏、平塚第一尋常小學校長猪俣操氏、横濱市二ツ谷小學校長森久保詮氏、神奈川縣教育會主事櫻井諒氏等出席された。殉職教職員として合祀されて居るのは全部で百六十八柱であるが其の中本縣では二十七柱が合祀されてある。尙殉難兒童生徒學生で配祀されてあるのは一千五百六十柱、その中本縣では七柱が配祀されて居る。

大正十二年九月一日	岡村　　ちめ
同	代用教員
大正十二年九月一日	久保　　ひで
同	副導
大正十二年九月一日	小林　　達治
同	副導
大正十二年九月一日	宮村　さくじ
同	代用教員
大正十二年九月一日	山田　正太郎
同	代用教員

横濱市第二日校小學校訓導

大正十二年九月一日	同	吉田小學校訓導	長塚 經造
大正十二年九月一日	同	吉川 誠吉	
大正十二年九月一日	同	小川 佐助	
大正十二年九月一日	同	佐々木 ゑん	
大正十二年九月一日	同	森 きぬゑ	
大正十二年九月一日	同	横溝 春吉	
大正十二年九月一日	小田原町立高等女學校書記	向井 政敬	
大正十二年九月一日	いづれも執務中大震災に遭ひ悲壯なる殉職を遂ぐ		
大正十二年九月一日	愛甲郡煤ヶ谷小學校訓導	星野 保次郎	
大正十二年九月一日	神社參拜のため兒童引率の途中大震災に遭ひ兒童を避難せしめんとして大木の下敷となり壓死殉職す		
大正十二年九月一日	高座郡綾瀬小學校訓導	多田 源作	
大正十二年九月一日	執務中大震災のため校舎全潰負傷し二十二日後遂に死亡殉職す		
大正十二年九月一日	横濱市フェリス英和女學校元校長		
大正十二年九月一日	ジェー・エム・カイバー		
大正十二年九月一日	執務中大激震襲來し校舎倒壊下敷となり殉職す		
大正十二年九月一日	(以上昭和十一年十月三十日合祀)		
大正十二年九月一日	足柄下郡酒白小學校訓導	杉坂 タキ	
大正十二年九月一日	大震災に際し日直として勤務中大震に遭ひ御眞影奉安所前にて「御眞影御眞影」と叫び又一死以つて奉護し猛火に包まれて殉職す		
大正十二年九月一日	中郡平塚小學校訓導	深野 延太郎	
大正十二年九月一日	唱歌室に於て半途入學兒童名簿を整理中大震に遭ひ校		

大正十二年九月一日	同	佐野 豊
階上教室に於て翌日の教授準備中大震に遭ひ校舎倒壊 殉職す		
大正十二年九月二日	横濱市元街小學校訓導	矢口 繁三
大震災に際し執務中災厄に遭ひ兩足を傷け出血甚しく 翌日死亡殉職す		
大正十二年九月一日	足柄下郡片浦小學校代用教員	松本 キク
翌日教授すべき教材の練習を唱歌室に於て行ひ折大 震災に遭ひ猛火に包まれ殉職す		
大正十二年九月一日	同 眞鶴小學校訓導	鈴野幸次郎
大正十二年九月一日	同 訓導	神戶好雄
大正十二年九月一日	同 訓導	高橋斗三郎
大正十二年九月一日	同 訓導	齋藤キワ
大正十二年九月一日	同 小田原第二小學校訓導	高橋正三
何れも大震災に際し職員室にて執務中校舎倒潰殉職す		
大正十二年九月一日	横濱市中學關東學院教諭	大橋貞彦
大正十二年九月一日	同	佐々木正雄
いづれも大震災に際し第二期授業開始準備のため登 校執務中校舎倒潰殉職す		
(以上昭和十二年十月三十日合祀)		
大正十二年九月一日	足柄上郡曾我小學校附設技藝學校生徒	高田ハル
大正十二年九月一日	中郡東秦野小學校尋常二年	



三 浦 北下浦小學校の壯圖 修養道場の展開

去る十月二十九日三十日の兩日に涉つて三浦郡北下浦小學校に於ては吉永校長の多年の懸案我國國語教育實際家の權威者田惠之助氏を招聘し同校の實地授業及び田氏の指導授業を行つた會員二百盛大裡に終了。尙田氏の會心の授業記録は本誌に記載される事になつてゐる。

盛大裡に終始した修身指導研究会

高坂尋常小學校

去る十七日高坂小學校に於ては縣指定修身科の指導研究會が舉行された。例話の取扱ひとして紙芝居。就後國民の覺悟として自治會等修身教育上鮮新な授業が展開され四十有餘の質疑事項を土屋教諭の懇切な指導によつて解決され盛大裡に終了した。

好評裡に終了した

圖書科指導研究會

川尻小學校

去る十二月十日、縣指定圖書科指導研究會が川尻小學校に於て施行された。同校の熱心な圖書科の指導は児童成績品の優秀と相俟つて好評を博し、鎌師教諭川口指導員の指導講評あつて無事終了した。

奈良女高師第八回 初等教育研究會

事變は日本民族繁榮の理想を實現し大日本民族の發展を圖るべき好機を吾々に與へた、このときにあたり、本年は特に學校、學級經營の刷新なる題下に十一月七日より十日まで四日間全國教員の研究發表協同會が行はれた。東西より集つた發表者は五十有餘名、或は學校經營に、或は學級經營に、或は日本精神の具體化に各氣を上げた。我が神奈川縣からは事變と學校教育（横浜市山元小學校小林貞一先生）學校經營について（三浦郡大津小學校訓導長星直忠先生）學級經營の社會化について（神奈川師範訓導長秦野金造先生）の三氏出席、理論に實際に學校學級經營の神奈川縣を披露して日本教育界に於ける神奈川縣の重要な一存在を紹介した。

偶 感（お前百なら）

鈴木保太郎

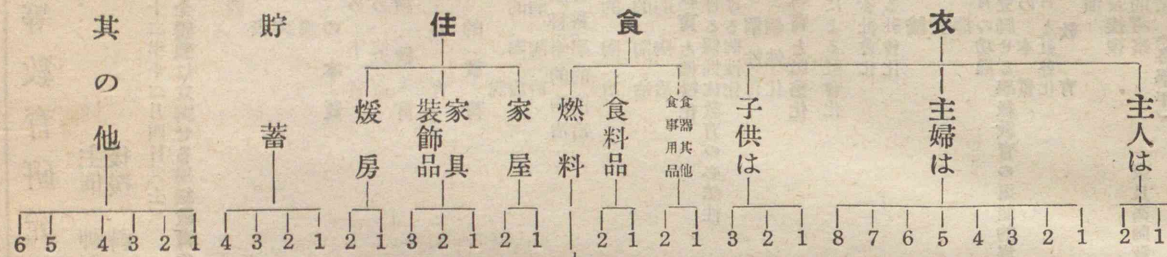
都々逸に「お前百までわしや九十九まで」といふ文句がある、百といはずに九十九と歳一つ遠慮した所に日本婦人の謙讓の徳が現はれてゐる、之を西洋流にするならば「お前百ならわしや百一つまで」と利己主義になるであらう、そして此の唄の後の文句が「共に白髪のはえるまで」共に氣に入つた、共にとは共存共榮である、平素の心掛けとしては歳一つ遠慮してゐるが共存共榮の爲には少しも遠慮してゐない、高砂の爺婆のやうになつても熊手や箒を持つて共に働きます、どこまでもお相手するといふ氣持が嬉しい、之が西洋流であるなら「お前百ならわしや百一つまで、そして白髪のはえぬやう」となるでせう。支那の現狀は將に斯のやうである、蔣介石が西洋依存を謳歌する爲に宋美齡とかいふハスツバ女房の御機嫌取りに身をやつさねばならぬのは笑止の至りである。なぜ日本のやうな淑女と手を握る事の幸福を悟らざるか。（三・二・一〇）

昭和拾參年度入學志願者案内

東京農業教育專門學校

- 募集決定人員 凡四十人
- 入 學 期 昭和十三年四月十日
- 應 募 者 資 格
入學許可スベキ者ハ身體健全品行方正ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ一年以上教職ニ在リタル者ニシテ入學檢定ニ合格シタル者タルベシ 但シ第一號ニ該當スル者ニ在リテハ在學中農業ヲ修メタル者ニ限ル（各號省略）
- 出 願 手 續
入學志願者ハ左ノ書類ニ入學檢定料（金五圓）及寫眞（入學願書提出前六ヶ月以内ニ撮影シタル脱帽半身ノ手札形）ヲ添ヘ學校長ニ提出スベシ
- 入 學 願 書（用紙ハ本校ヨリ交付ス）
- 卒業證明書又ハ專門學校入學者試驗檢定合格證明書但シ應募者資格第三號該當者ハ小學校農業科專科正教員ノ免許狀（寫）ヲ添付スルコトヲ要ス
- 身體檢査證（用紙ハ本校ヨリ交付ス）
- 學業成績證明書、品行調查書（用紙ハ本校ヨリ交付ス）ヲ當該學校長ヲ經テ提出スベシ
- 入 學 願 書 提出締切期日 昭和十二年十二月十日
- 選 拔 試驗科目
(1) 學 科
一、英 語（英文和譯）
二、數 學（代 數）
三、理 科（植物及化學）
右ハ師範學校卒業程度トス
(2) 口頭試問及身體檢査
- 試驗期日及場所
(イ) 試驗期日 昭和十三年一月十日
(ロ) 試驗場所 東京本校
- (ハ) 口頭試問及身體檢査ハ學科試驗合格者ニツキ二月廿五日（金）二月廿六日（土）兩日本校ニ於テ行フ但シ臺灣、朝鮮ニ於テ受験シタルモノハ四月九日（土）本校ニ於テ行フ

うせまし力協に濟經政財時常非てしう斯はで庭家



洋服、帽子、シャツ、スウェーター等の毛織物、革靴の新調はなるべく見合はせることにしませう。
白金製品や、金側時計、金鎖、金製のカフス釦、金製のネクタイピン、金縁眼鏡、金ペン等は買はないやうにしませう。
モスリン、セルはステープルファイバー製品や生糸、ステープルファイバー混織のものを使用しませう。
毛織物の編物はなるべく止めませう。
襪、洋服、外套類の新調はなるべく見合はせることにしませう。
浴衣其の他綿織物の衣服はなるべく新調を見合はせることにしませう。
手拭其の地の綿製品を大切に使用しませう。
金箔、金糸を使用した織物は買はないやうにしませう。
金製の指環、腕飾、腕輪、帯止めを買はないやうにしませう。
舶來化粧品は使はないことにしませう。
洋服はステープルファイバーの製品又は其の混織のものを使用しませう。
革製の靴やランドセルの新調は出来るだけ差控へませう。
金鎖、ゴム製の玩具はなるべく使はないやうにしませう。
錫、ニッケル、鐵、銅、眞鍮製の食器、茶器はなるべく買はないで瀬戸物などで間に合はせませう。
舶來の食器類の買入は止めませう。
舶來の罐詰、罐詰、菓子は買はないやうにしませう。
舶來の酒類、煙草、紅茶はのまないやうにしませう。
炊事用の石炭、瓦斯、石油、電氣等の使用を節約しませう。
家屋の新築、改築、増築は出来るだけ見合はせませう。
屋根、庇、樋等に銅を使はないやうにしませう。
革、毛織物張り及鐵製の椅子の新調はなるべく差控へませう。
金屏風、其の他金使用の裝飾品、鐵、銅等の飾物を買ふのを差控へませう。
毛織物のカーテン、絨氈等の新調はなるべく控へませう。
石油、瓦斯、石炭、電氣等は無駄にしないやうに心懸けませう。
鐵、銅製のストーブ等の新調はなるべく控へませう。
郵便局で賣出す國債を買ふことにしませう。（現金が必要な時は郵便局で何時でも買上げます）
割増金附貯蓄債券を買ふことにしませう。
銀行預金、郵便貯金、信用組合貯金をすることに心懸けませう。
簡易保險、郵便年金、生命保險に入るやうに心懸けませう。
スポーツ用具も輸入品は止めませう。
用事の外は自動車を使用することを避けませう。
紙類は出来るだけ無駄に使用しないやうに心懸けませう。
不用の古洋服、古着、古シャツ並に古自転車、古釘、古罐、古コルク、不用の鍋釜、古雑誌、古新聞、反古紙ボロは捨てないで賣り拂ひませう。
煙草、菓子、銀紙、化粧品や齒磨のチューブ、輪ゴム等は捨てずに集めて置いて賣りませう。
此の際溜つてゐる不用品はみな賣りませう。

！實充の力國は標目の蓄貯◇

！少減の入輸は標目の約節費消◇

